

「子どもへの望ましい関わり方」

－ 2回の全市親子調査で分かったこと －

富士見市青少年問題協議会講演会

平成22年9月29日

富士見市「教育に関する親子意識調査」実施委員会

富士見市教育相談研究室

室長 木津秀美

■ 本市教委「親子意識調査」の経緯と概要

- 実施日 I 「児童生徒生活実態調査」 18年6月
II 「教育に関する保護者意識調査」 19年6月
III 「教育に関する親子意識調査」 22年6月
- 目的 I 不登校等学校教育の指導力向上 II 家庭教育支援
- 方法 I 本室が学校を通じて実施し、集計・分析は本室で
II 調査委員会が学校を通じて実施し、集計・分析は本室で
III 調査委員会が学校を通じて実施し、集計・分析は本室で
* 委員メンバー：小・中学校長各1名.小・中PTA各1名.小・中教諭各1名.教委2名.本室3名.
- 対象 I 本市立小・中学校児童生徒（小学生：約6000人.中学生：約2400人）
II 本市立小・中学校保護者（回答者数3447人.回収率：78%）
III 本市立小・中学校児童生徒（小学生：約3000人.中学生：約2600人）
本市立小・中学校保護者（回答者数3576人..回収率：77%）
- 内容 I ・子どもの①学校生活 ②家庭生活関係③悩みや不安 ④心理や行動
II ・保護者から見た子どもの①～④
▪ 保護者自身の教育上の悩みや不安

・ <親子意識調査回答者の内訳>

1. 回答者数と内訳

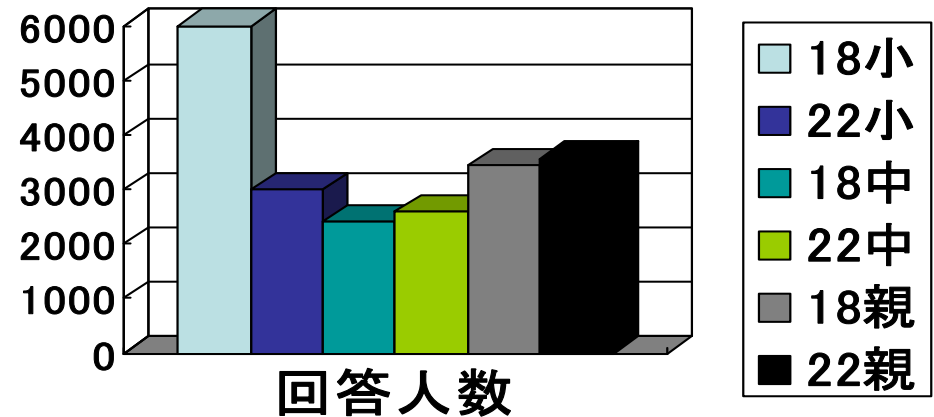
(1) 小学校 (抽出児童、保護者)

- ① 1・3・5年実施校 6校
- ② 2・4・6年実施校 5校

(2) 中学校 (全生徒、保護者)

- ① 全学年実施校 6校

* 保護者調査は兄弟がいる場合は1人(第1子)についてのみ回答して頂いた



<保護者回収率>

- ・ 19年度調査 78%
- ・ **22年度調査 77%**
- (小学生保護者調査) 81%
- (中学生保護者調査) 73%

調査比較1-1. 学校生活に関すること

①「学校は楽しいと思う」に対し、「よく、時々」思う子の割合は多い

* 前調査では、女子の方が楽しい。親の方が楽観的。⇒

②「なかの良い友達はいますか(小)」、「何でも話せる友人はいますか(中)」に対し、

「いない」と答えた子の割合が多い ⇒

* 前調査では小4以上から急増していた

↓(特に男子)

対策:学校での取組み課題友達作りの支援・援助

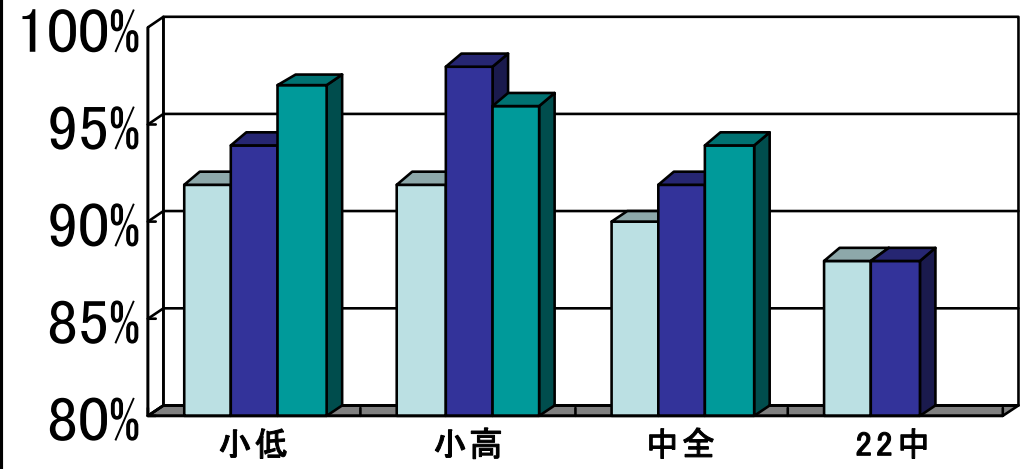
↓(効果あり)

* 今調査では親友のいない中学生が減っている。

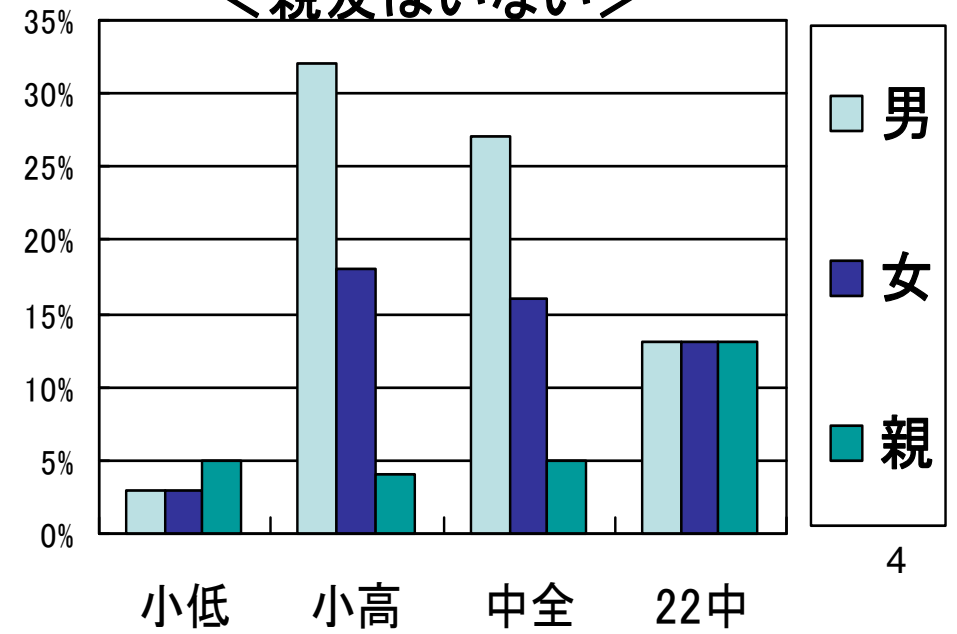
* 前調査では親と子の認識がかなり違っていたが、22年度調査では違いはみられない。

(22中とは、22年度の中学生とその保護者の数値)

＜学校は楽しい＞



＜親友はいない＞



調査比較1-2. 学校生活に関すること

③ お子様はクラスメイトとうまくいって

いますか(保護者調査)

・クラスの友達と仲良く遊んでいますか(子調査)

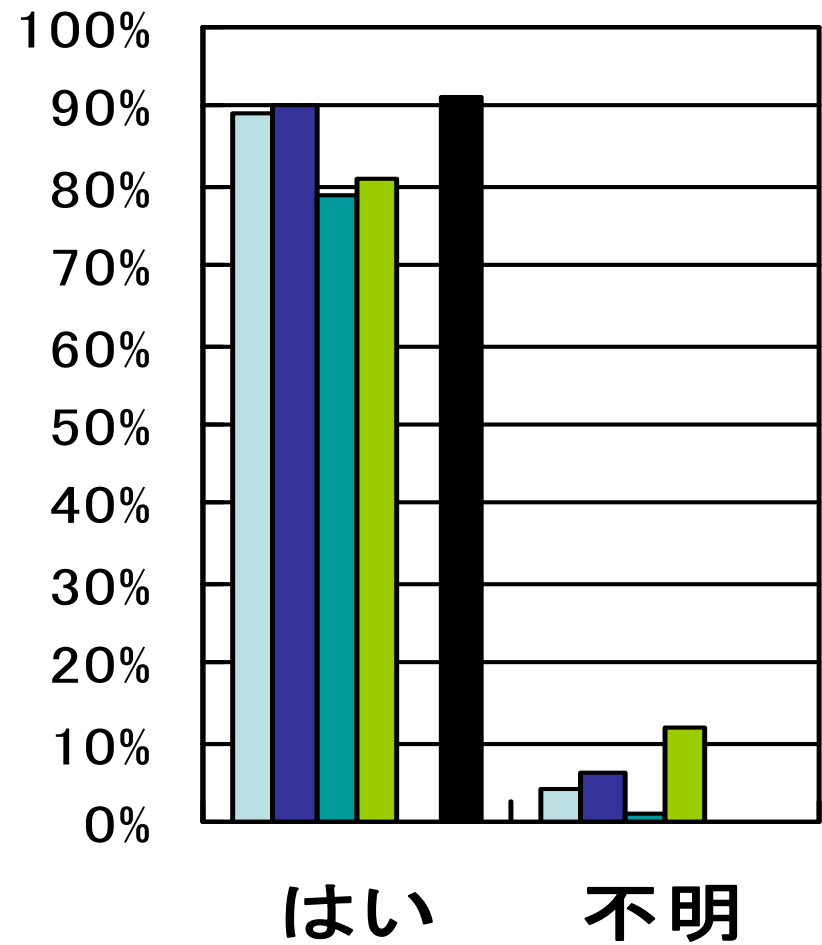
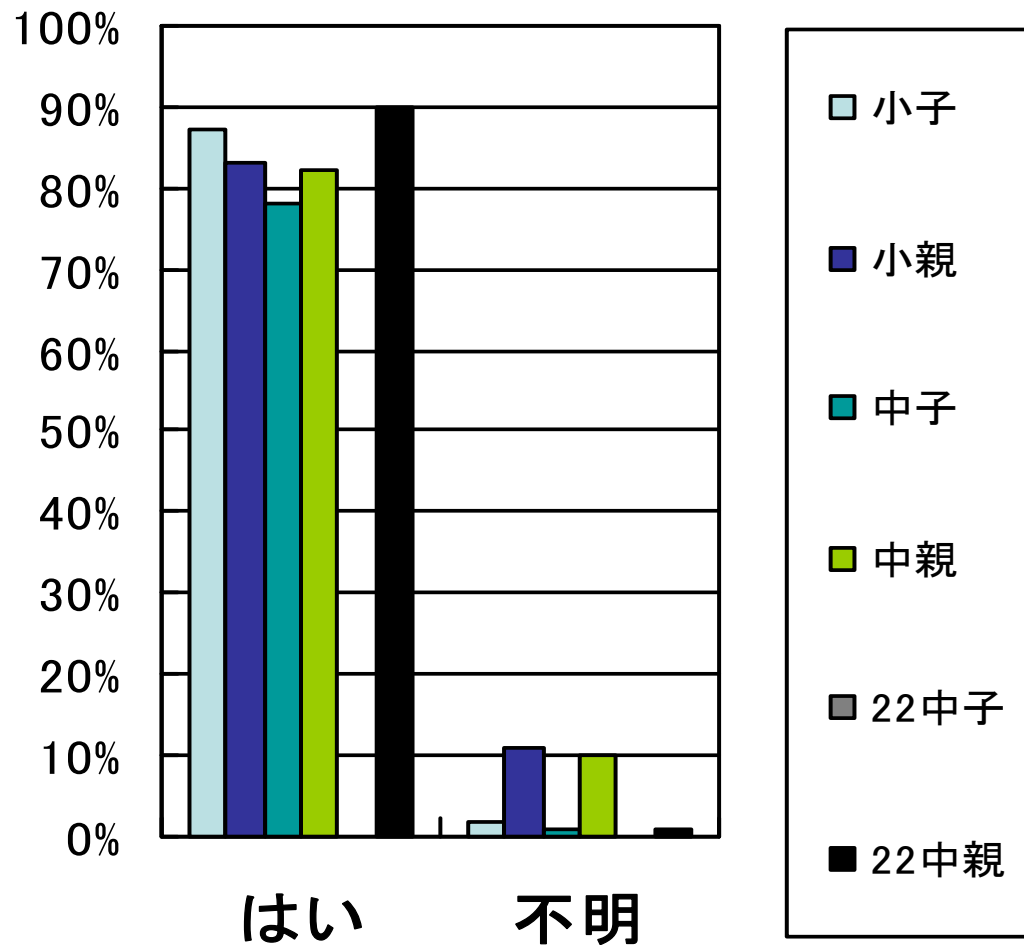
<22中子は未記入>

④ お子様は担任の先生とうまくいって

いますか(保護者調査)

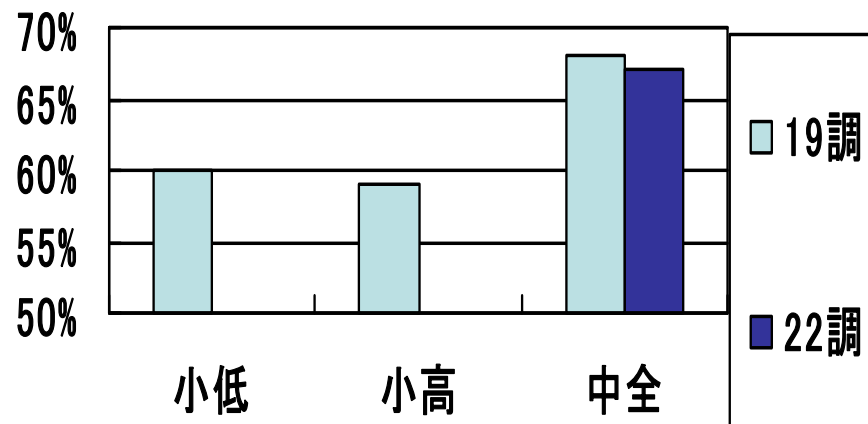
・先生は私のことを理解してくれる(子調査)

<22中子は未記入>

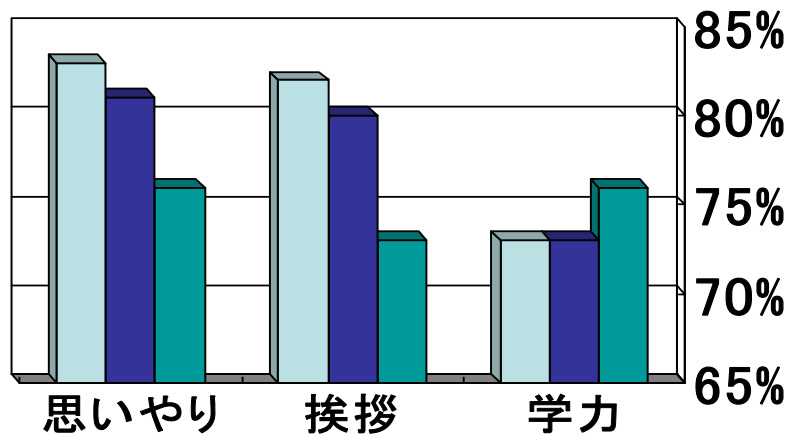
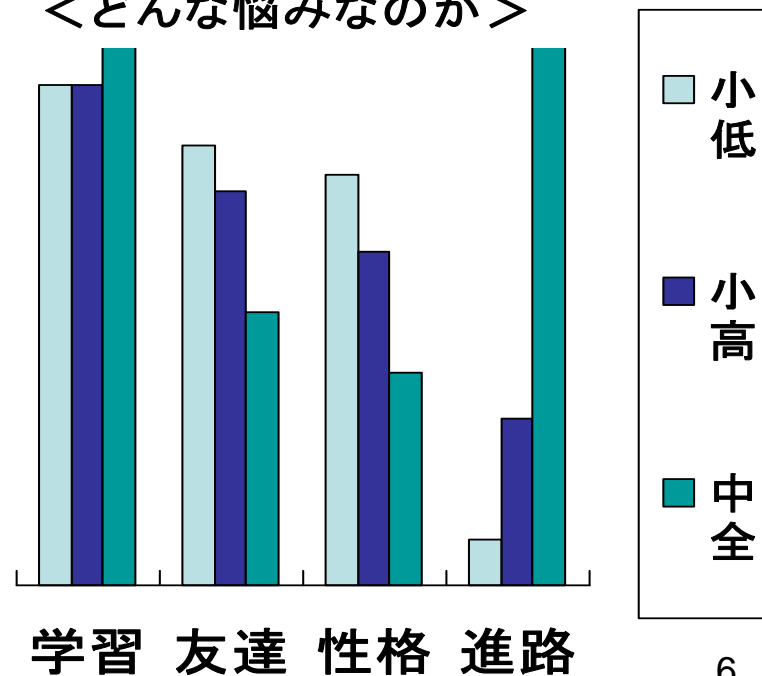


調査比較1-3. 学校生活に関する保護者の現在の悩み

- ⑤お子様に対する親の悩みや不安
はありますか ⇒
・「はい」か「いいえ」で回答
- ⑥それはどんな悩みですか
・複数回答 (右下) ⇒
- ⑦学校にどんな指導を望みますか
・「とても思う」の回答%
↓



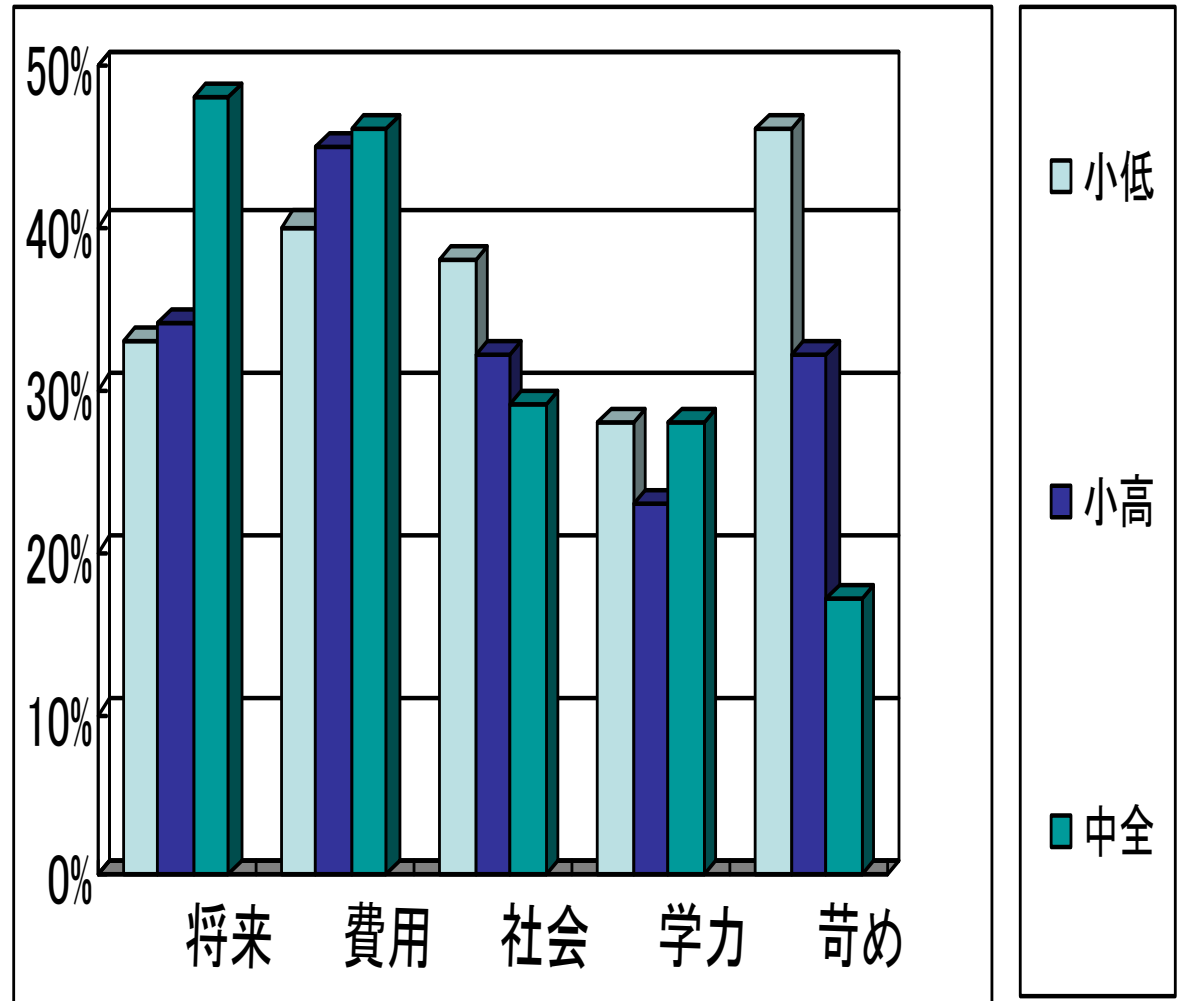
<どんな悩みなのか>



調査比較1-4. 学校に関する子どもの将来への心配

⑨子育てについて親として今後不安なこと

- ・将来=子どもの将来
- ・費用=教育費
- ・社会=不安な社会での子育て
- ・学力=子どもの学力
- ・苛め=いじめ

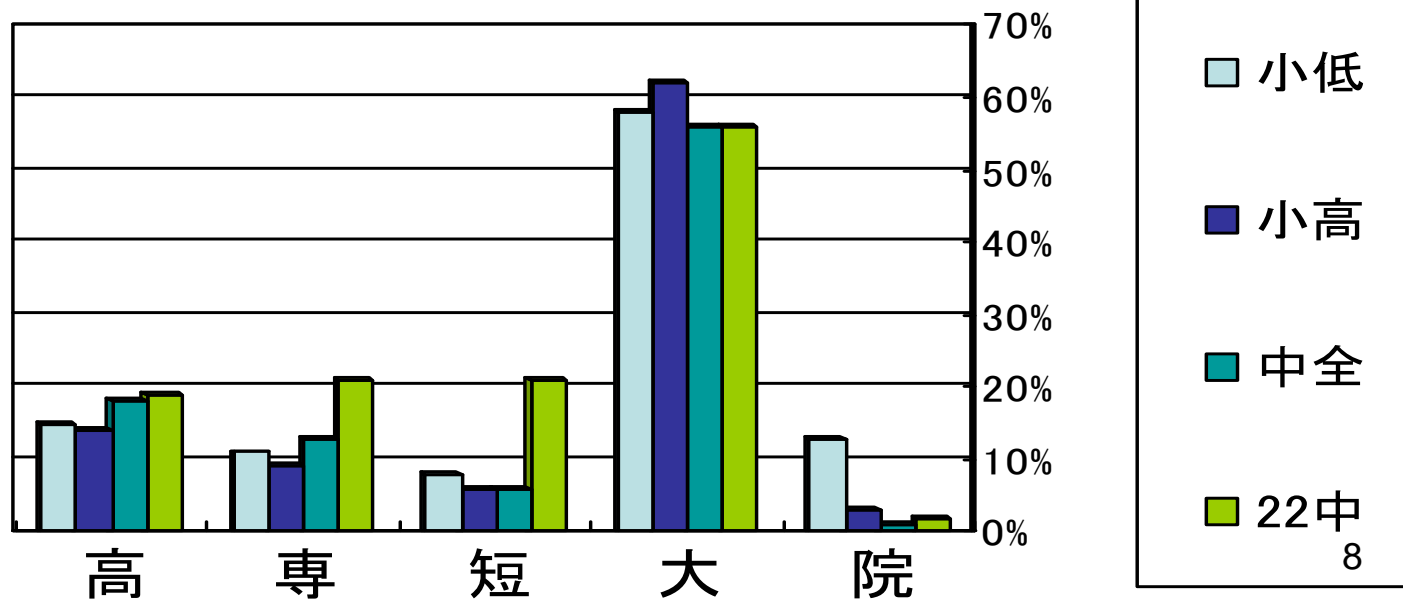


調査比較1-5. 学校に関する子どもの将来(進学)

⑧どの程度まで進学させたいですか

- ・高 = 高校まで
- ・専 = 専門学校まで
- ・短 = 短大まで
- ・大 = 大学まで
- ・院 = 大学院まで

- ・本市保護者の6割は大学進学を願う(H19調査)
- ・本市保護者の 割は大学進学を願う(H22調査)
- ・平成18年度の我が国の大学進学率は約46%である
- ・幼稚園から大学までの平均教育費用(文科省試算)
 - ① 793万円(幼公+小公+中公+高公+大国)の場合
 - ② 1538万円(幼私+小公+中私+高私+大私)の場合
- ・大学の初年度納付金は 国立で82万円、私立で131万円(H18)



調査比較1-6. 学校生活に関すること

⑩「今、いじめられていますか」(子調査)

・YESの回答:小843人。中123人 (H18)

・YESの回答:小 人。中 人 (H22)

<H18以降各校で取り組んだ様々な対応策>

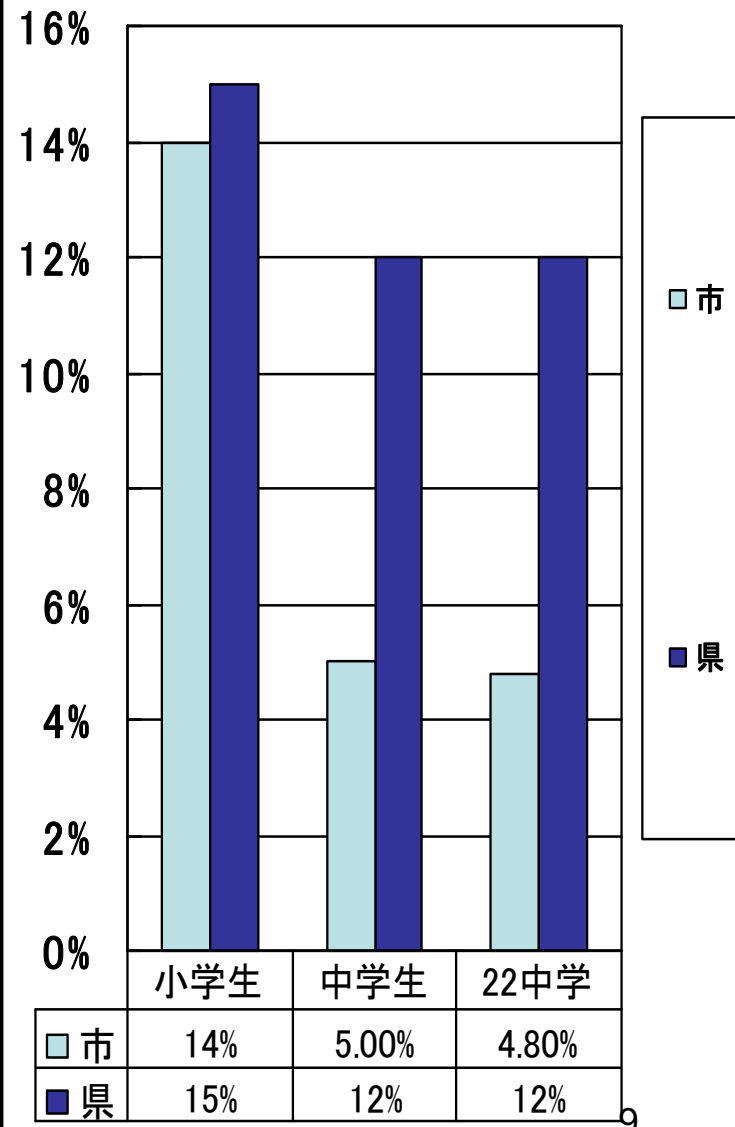
- ・教員の危機意識の強化
- ・校内指導体制の再構築
- ・各校での独自アンケートの実施
- ・分析結果の共有のための研修実施
- ・些細なサインを見逃さない意識改革

* 県数値の小は4・6年生.中は2年生(H18)

「学校の対応は適切ですか」(保護者調査)

- ・(小低)良い:21%。分からない:63%
- ・(小高)良い:32%。分からない:47%
- ・(中全)良い:31%。分からない:49% <H19>

* 前調査では「いじめ」の実態が分からない保護者が多かった。



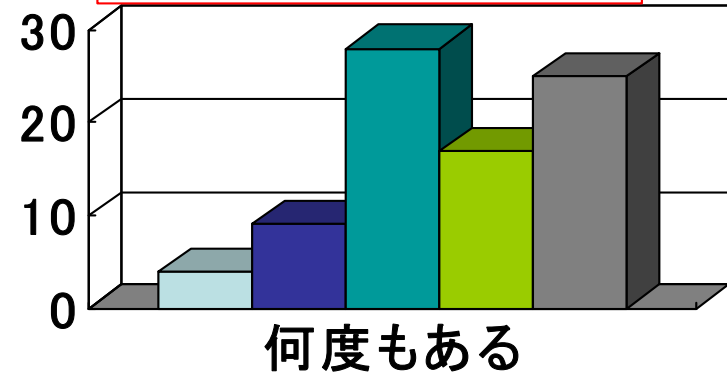
参考：「子どもの体験活動等に関する国際比較調査」 （子どもの体験活動研究会99年）「道徳観・正義感」

* 日本の子どもが他の国と比べて以下の3点をあまりやっておらず、友人関係の希薄さが感じられる。

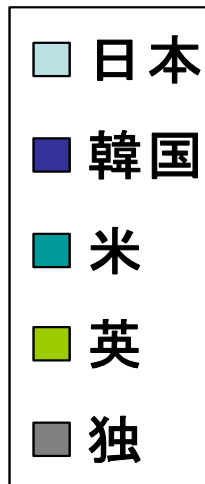
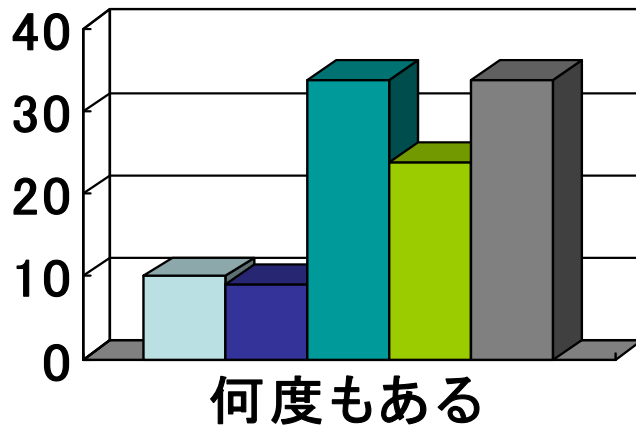
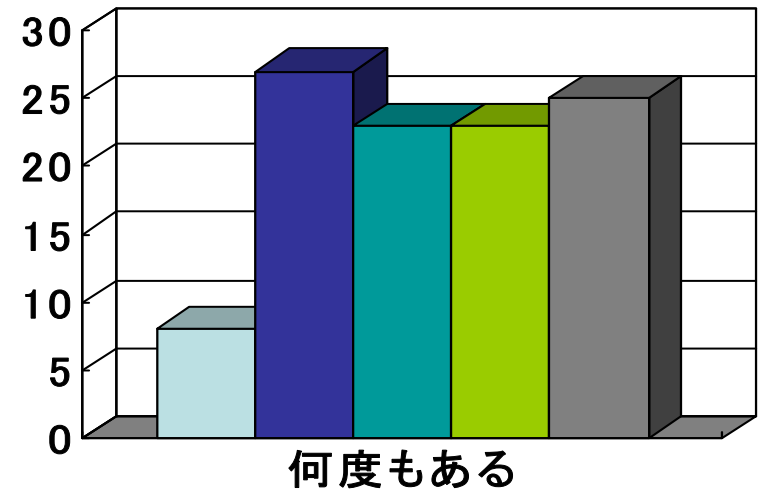
- ①いじめを注意した →
- ②友達のけんかをやめさせた →
- ③悪い事をしている友達に注意した



<いじめを注意した>



<けんかをやめさせた>



参考: いじめに対する基本的認識

＜文科省の基本的認識・・・学校での基本的認識＞

「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的苦痛を感じているもの」＜H18変更＞

- ①「弱い者をいじめることは、人間として絶対に許されない」との強い認識にたつこと
- ②いじめられている子どもの立場に立った、親身の指導を行うこと
- ③いじめは、家庭教育の在り方に大きなかかわりを有していること
- ④いじめの問題は、教師の児童生徒観や指導の在り方が問われる問題であること
- ⑤家庭、学校、地域社会など全ての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって真剣に取り組むことが必要であること

富士見市教育委員会の主な対応施策

- ①各校での取組み(人間関係作り・自己肯定感の向上等)とその支援
- ②各校への生徒指導訪問<学校教育課指導主事と本室相談員で年3回実施>
- ③各校への本室相談員による巡回相談<小学校年5回・中学校年3回実施>
- ④「非行防止教室」の開催<小学校に本室相談員が出向き児童・保護者に実施>
- ⑤学校教育相談員(各校1名)対象の教育相談研修会の開催<年5回開催>
- ⑥「親子意識調査結果分析研修会の開催<全校実施。市民・PTA・民生委等>
- ⑥基礎学力定着支援員の配置(全小11校・各1名)・<研修会年3回開催>
- ⑦ふれあい相談員の配置(全中6校・各2名)・<研修会・協議会を年6回開催>
- ⑧不登校児童生徒対応推進委員会の設置<講演会・事例研究等・年4回開催>
- ⑨特別支援教育コーディネーター研修会の開催<年3回開催>
- ⑩特別支援教育推進プロジェクトチームの設置<年12回開催>
- ⑪適応指導教室「あすなろ」の設置(21年度23名通室・学校復帰率約7割)
- ⑫教育相談研究室に専門家の配置(精神科医、臨床心理士、言語聴覚士等)
- ⑬PTA等保護者対象講演会の開催(学校・公民館・交流センター等で)
- ⑭次年度小学校就学児童の保護者対象「親の学習プログラム」講座の開催
- ⑮学校給食センター栄養士や栄養教諭の「食」の取組み・授業協力等
- ⑯生涯学習課の取組み(地域子ども教室:放課後自由遊び等)
- ⑰教育相談Q&A(広報「ふじみ」・学校教育便り「きんもくせい」・本室HP)
- ⑱関係課所等との緊密な連携(障害福祉課・子育て支援センター・民生委員等)

2-1. 家庭生活に関すること

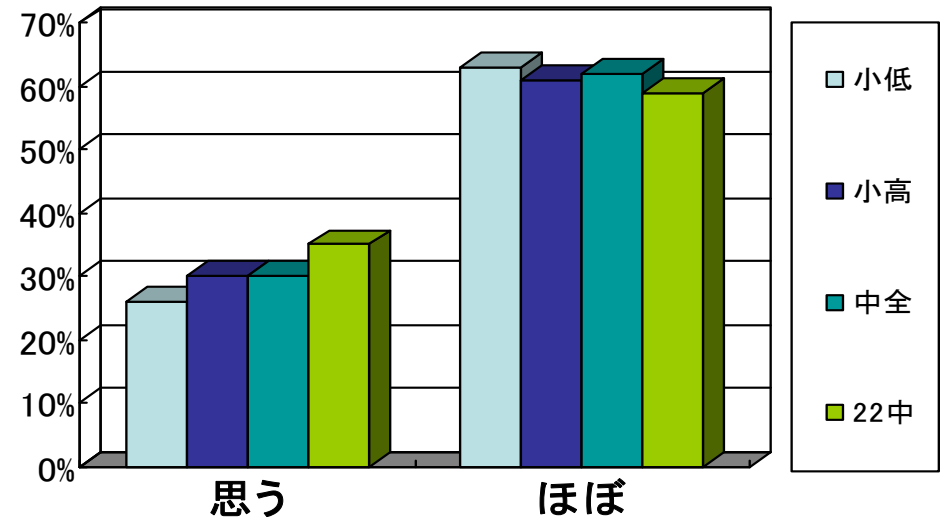
①最近、子どものしつけ等、家庭の教育力低下が指摘されていますが、どう思いますか(保護者調査)

・思う = 全くその通り

・ほぼ = ある程度そう思う

* 合計すると、約90%の保護者は、最近の家庭教育力低下を認めている(H19)

* 合計すると、約94%の保護者は、最近の家庭教育力低下を認めている(H22)



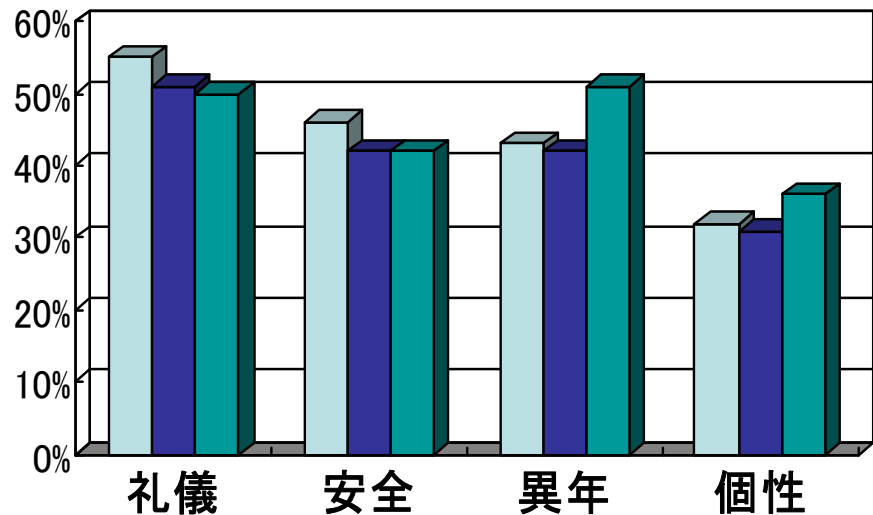
②地域の教育力向上のためにはどのようなことに入ればよいと思いますか(保護者調査/H19)

・礼儀 = 礼儀やしつけをしっかりと教える

・安全 = 安全を確保する活動をする

・異年 = 異年齢の人達との交流を図る

・個性 = 個性を伸ばす教育を強化する



94%の保護者が認めた「家庭の教育力低下」の中身とは

今回の調査の、「最近、子どものしつけ等、家庭の教育力低下が指摘されていますが、どう思いますか」に対する保護者の回答は、94%が肯定していた。

- ・小学生の保護者 89,7% (全くその通り 27,6% + ある程度そう思う 62,2%) <H19>
- ・小学生の保護者 % (全くその通り % + ある程度そう思う %) <H22>
- ・中学生の保護者 92,3% (全くその通り30,0 % + ある程度そう思う 62,3%) <H19>
- ・中学生の保護者 94,0% (全くその通り35,0 % + ある程度そう思う 59,0%) <H22>



子どもに好き勝手をさせるのが自由に育てることと誤解して、本来親が教えなければならない生活の仕方を教えていないのではないか(世論)

コーチング理論(1)

- ・子どもの自立のプロセスは、「自律」を教えるプロセスである。
- ・自律を教えるために、子どもにとっての「生きやすい生活習慣」を身につけさせる事が大切である。その生活習慣を実行する中で子どもは自分を律することを学ぶ。
- ・生きやすい習慣とは将来においても子どもの財産となりうる習慣を指し、その習慣に従っていれば、人とのいい関係を維持できたり、体調がいいとか、気持ちよく生活できるなどの、生活を豊かに安定させることができるものである。

参考: **そもそも「しつけ」とは何か**

しつけとは、

- (1) 子どもが自立して幸せに生きることができるよう、
- (2) 基本的な生活習慣や (3) 社会的マナーを、
- (4) 親が子どもに伝える行為 (コーチング理論)

*「しつけ」をめぐる誤解

- ・「しつけのつもりだった・・・」(子どもを虐待死させた親の弁)
- ・叱ることがしつけになる(「お前は私の理想の子どもではない」から叱っている)
- ・「しつけ」という名の親の奴隷化(親の都合で怒っている場合が多い)

「基本的生活習慣」とは「生きやすい生活習慣」

コーチング理論(2)

1 早寝早起き

- ・朝の起床時刻と睡眠時間を考えて、就寝時刻を親子の話し合いで決める

2 食事(三食をきちんととる)

- ・体に良い物を親の手で調理し、家族で食卓を囲む工夫と努力を

3 身の回りを整える

- ・体を清潔に保ち、使った物を片付け、自分の物を自分で管理する事を教える

4 自分と人・自分の物と人の物の区別

- ・自分と自分の物に責任をもち、人や人の物に敬意を払う事を教える

5 お金の使い方

- ・年齢に合わせてお小遣いを与え、管理しながら上手にお金を使う事を教える

6 勉強

- ・学校まかせにしないで、家庭に勉強ができる環境を整えるのが親の仕事

7 言葉遣い・マナー

- ・親から学んできた言葉遣いやマナーを基本にして身につけていく

8 物をやたらと与えずに選択を与える・テレビやゲームの時間の自己管理等

参 社会的マナーの基礎となる家庭内のルール

コーチング理論(3)

生きやすい習慣を身につけさせるプロセスで、親の価値観を表す枠組みを「ルール」というかたちで表現することもできる

(子どもが人と楽しく生きるための基本的なマナーを身につけるためのものであることが大切である)

(ある家庭のルール例)

(社会的マナー・ルール)

- | | |
|--------------------------|------------|
| ▪ 決まった時刻に寝る..... | 自己管理 |
| ▪ 決まった時刻に自分で起きる..... | 自律の基礎 |
| ▪ 居間に自分の物をおきっ放しにしない..... | 公共心 |
| ▪ 人の物を勝手に使わない..... | 善悪の判断 |
| ▪ 宿題は夕食前に終わる..... | 習慣の態度化・行動化 |
| ▪ テレビは二時間まで..... | 自己管理 |
| ▪ 決まった手伝いをする..... | 協調性・責任感 |
| ▪ くつをそろえる..... | 習慣の態度化・行動化 |
| ▪ 体を冷やさない(講師提案)..... | 健康の自己管理 |

参考：国際比較調査

「家庭のしつけ」

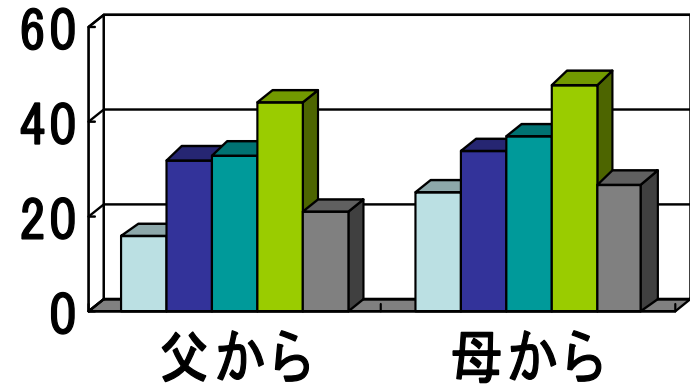
* 社会のルール・道徳心に関して、「よく言われる」と答えている子どもは、全ての項目で日本が最も少なかった。

④ 人に迷惑をかけないようにしなさい →

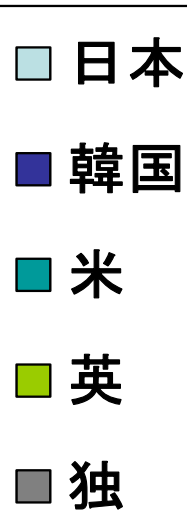
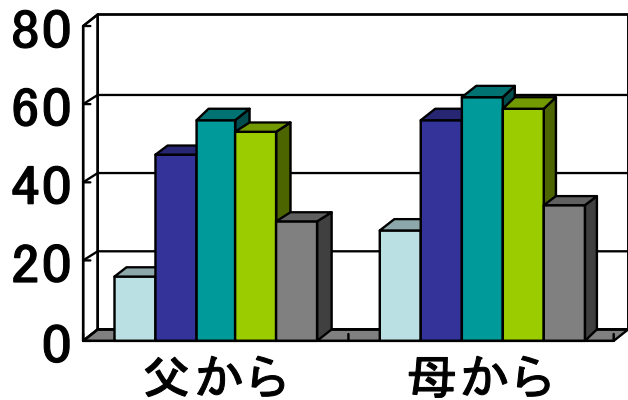
⑤ 先生の言うことをよく聞きなさい

↓ ⑥ 物を大切にしなさい →

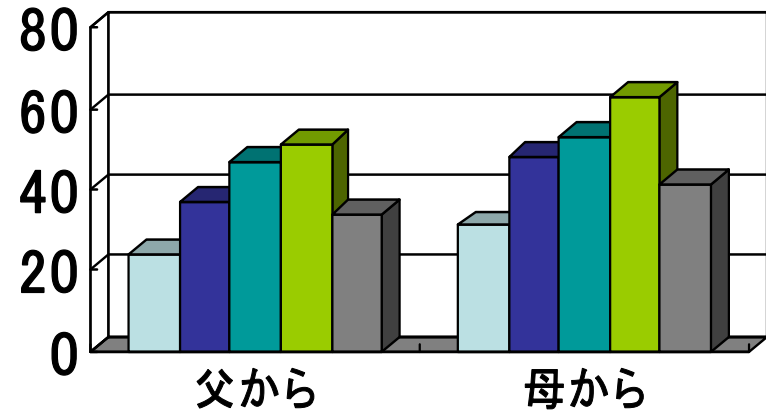
＜人に迷惑かけないように＞



＜先生の言う事を聞くように＞



＜物を大切に＞



調査比較2-2. 家庭生活に関すること

③朝食の欠食 ⇒

(食べない、食べたり食べなかったり)

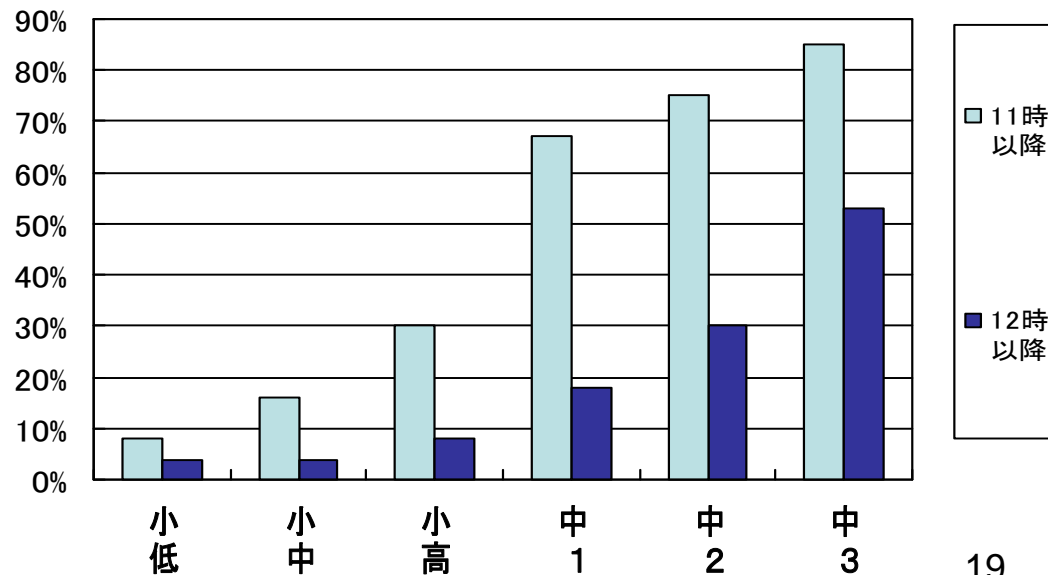
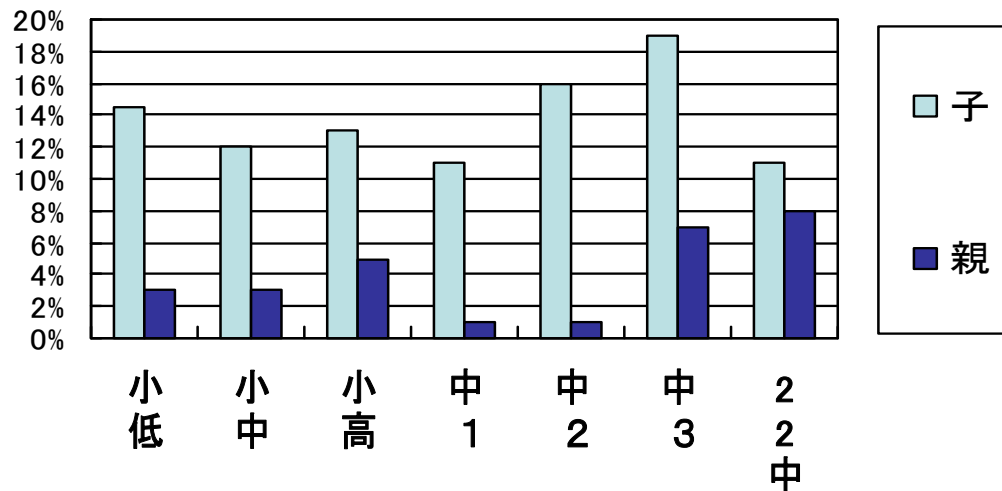
* 成長期の子どもにとって必要不可欠な生活習慣の乱れは、学習意欲や体力低下をもたらすと同時に、非行の一因とも指摘されている
→体を冷やす＝心身不調・免疫力低下

* 親と子の意識や認識が違っている

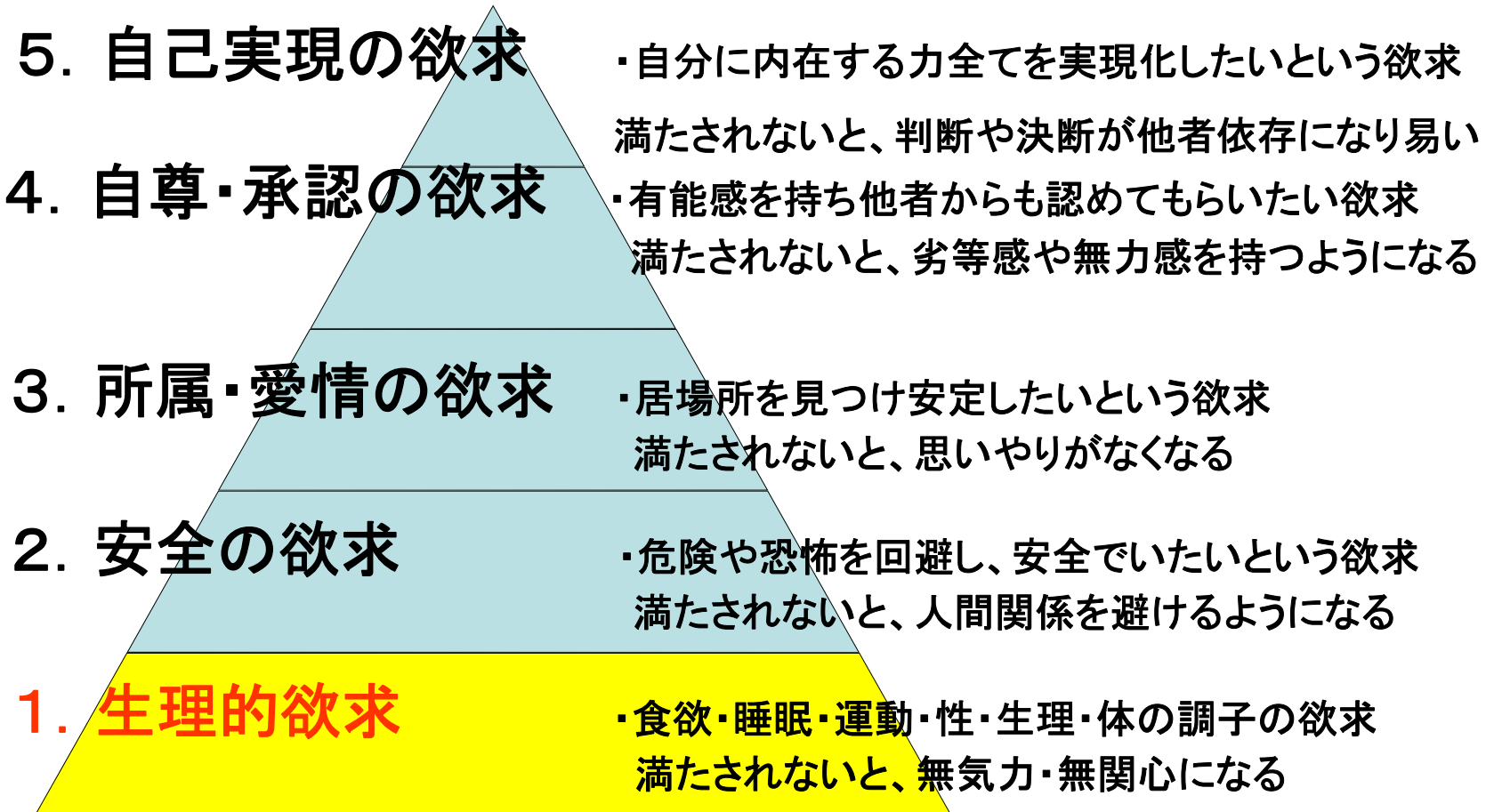
④就寝時刻が遅い ⇒

* 慢性的な睡眠不足の子どもの出現
→体を冷やす＝心身不調・免疫力低下

「生理的欲求が充足されないとより高次の欲求が現れず、落ち着きをなくし、無気力無関心な状態のままとなる」
(マズロー理論)

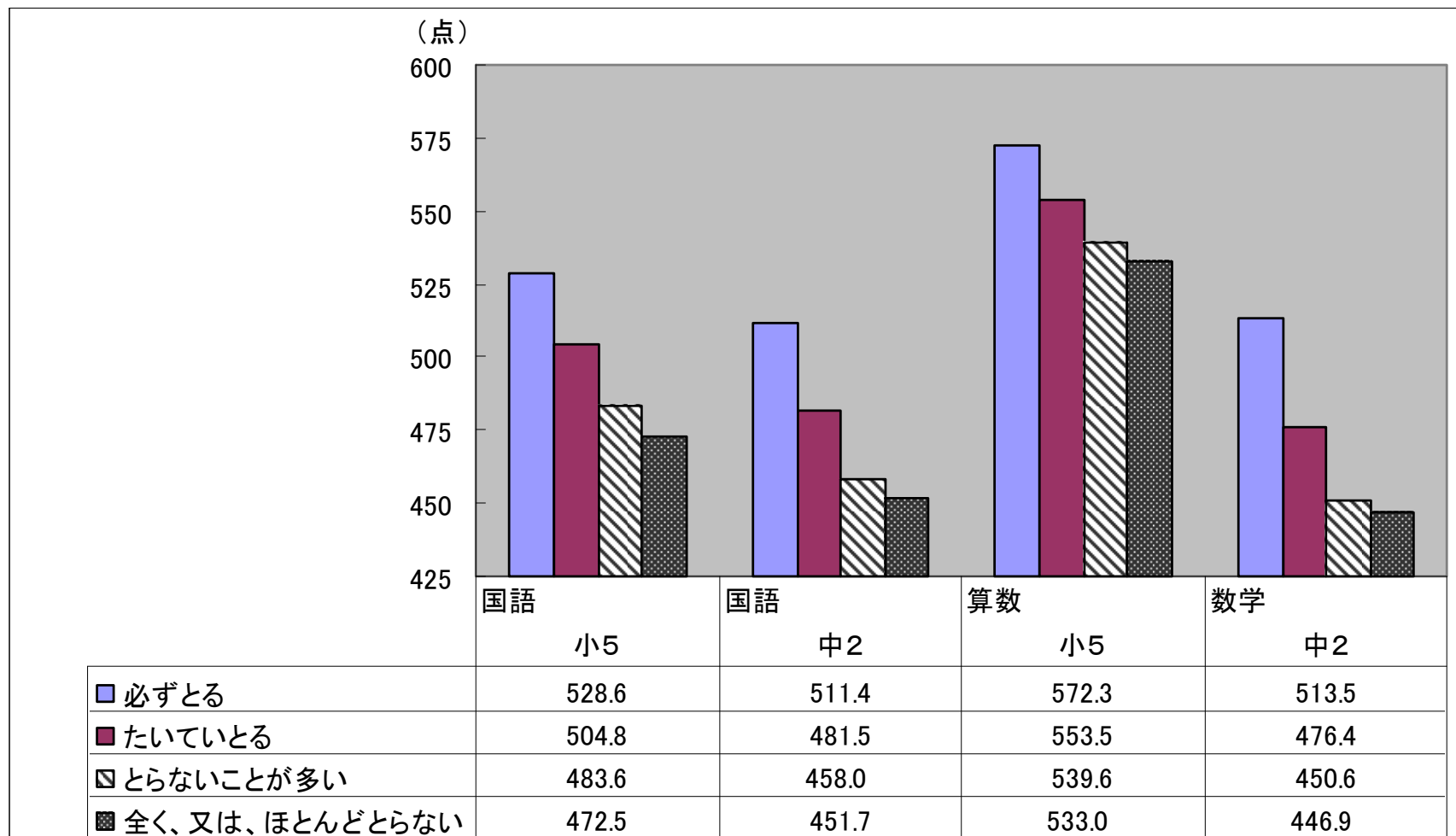


参考: マズロー理論 (欲求の階層)

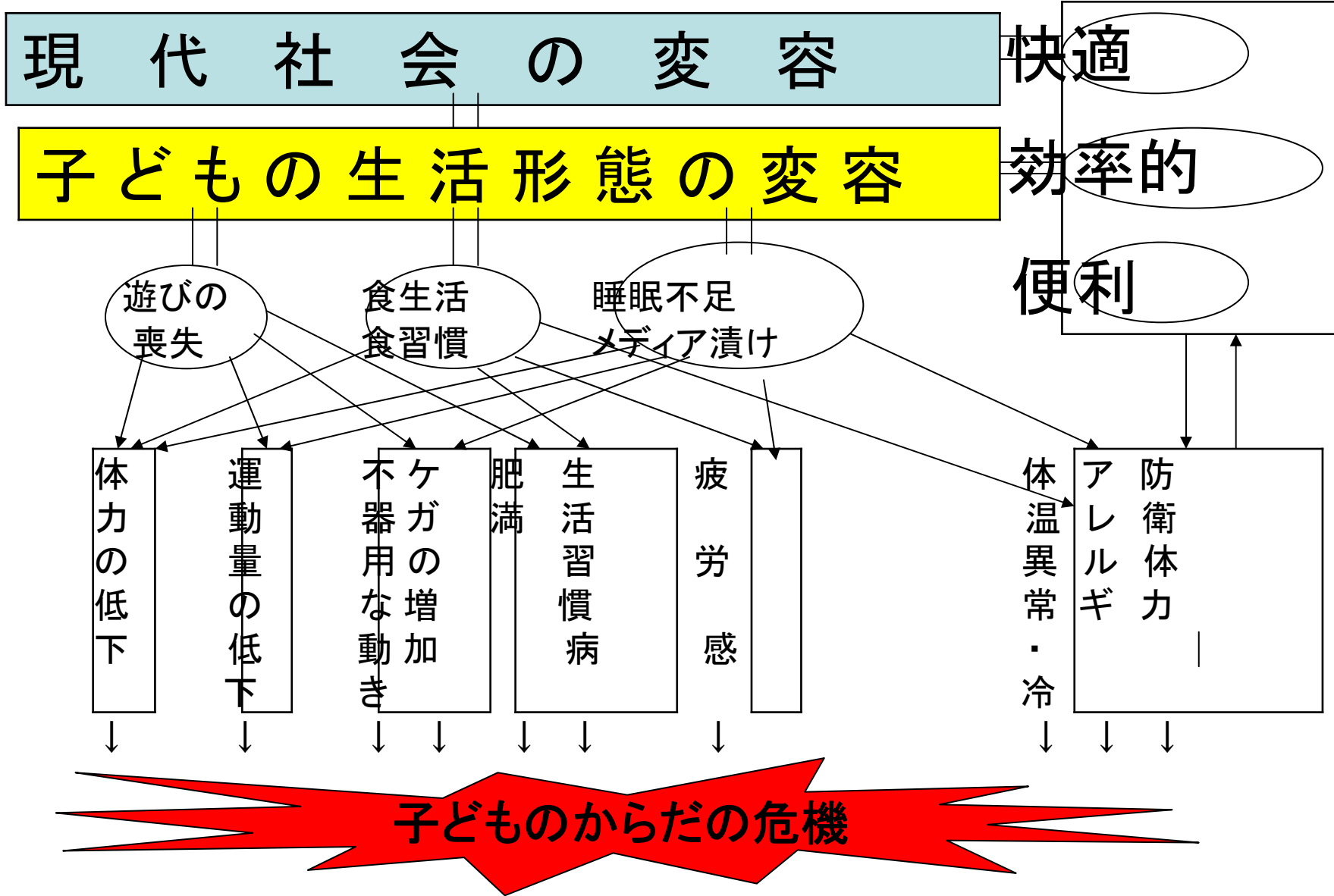


参考：朝食の摂取とペーパーテストの得点の関係

(17年度文科省白書より)



参考: **子どものからだの異常とその原因** (山梨大調査)



子どものからだ危ない (山梨大調査)

- 1 止まらない子どもの体力低下** (文科省平成14年「体力・運動能力調査結果」)
子どもの体力(行動体力)は、1985年頃を境にして、現代まで低下が続いている
(11才例概数)50m男子:0.3秒**低下**.ソフトボール投げ:3m**低下**.握力:1kg**低下**
- 2 驚くべき子どものケガの実態** (日本体育・学校健康センター1999年度調査結果)
小学生の骨折の発生率は、1978年~1999年までの間で**約1.7倍に増えている**
転んだ時にうまく身をかばえないため、手足を骨折したり顔や頭をケガする子が増加
- 3 動くのがめんどくさい、「疲れた」が口癖の子ども達**
現在の小学生の1日の総歩数は、この20年間で**1万歩以上、大幅に減少している**
現在の小学生の1日の運動量は、おにぎり1個分のエネルギー分である
子どもが訴える「疲れ」の多くは眠気とだるさで疲労のピークは登校時である
子どもの「疲れ」は、月曜日が最も疲れており週末の金曜日が最もとれている
- 4 子どもを襲う生活習慣病・アレルギー・体温異常(冷え)**
11歳児の**10人に1人が肥満傾向**.放置すると6~8割が大人まで続き生活習慣病の恐れ
小学校高学年で、アレルギー(鼻炎・皮膚炎等)と診断された子どもは2人に1人いる
約3割の子どもが、低体温か高体温(1998年早稲田大学・前橋氏の調査)

最近増えている子どもの体のおかしさ

昔と今のワースト5の推移 「子どものからだと心白書2006」より

幼稚園 ワースト1	1990 アレルギー	2005 アレルギー
ワースト2	皮膚がサカサ	すぐに疲れたと
ワースト3	すぐに疲れたと 言う	皮膚カサカサ
ワースト4	ぜんそく	背中ぐにゃ
ワースト5	背中ぐにゃ	<u>すぐ寝転がる</u>

小学校 ワースト1	1978 背中ぐにゃ	2005 アレルギー
ワースト2	朝からあくび	背中ぐにゃ
ワースト3	アレルギー	<u>授業中じっとして いない</u>
ワースト4	背筋おかしい	<u>すぐに疲れたと</u>
ワースト5	朝礼でバタン	皮膚カサカサ

中学校 ワースト1	1978 朝礼でバタン	2005 朝からあくび
ワースト2	背中ぐにゃ	<u>すぐに疲れたと</u>
ワースト3	朝からあくび	<u>平熱36°C未満</u>
ワースト4	アレルギー	視力が低い
ワースト5	肩こり	首、肩のこり

高校 ワースト1	1978 腰痛	2005 アレルギー
ワースト2	背中ぐにゃ	腰痛
ワースト3	朝礼でバタン	<u>平熱36°C未満</u>
ワースト4	肩こり	腰痛・頭痛
ワースト5	貧血	<u>すぐに疲れたと</u>

参考: 「体力とは何か」 (中村和彦: 山梨大助教授)



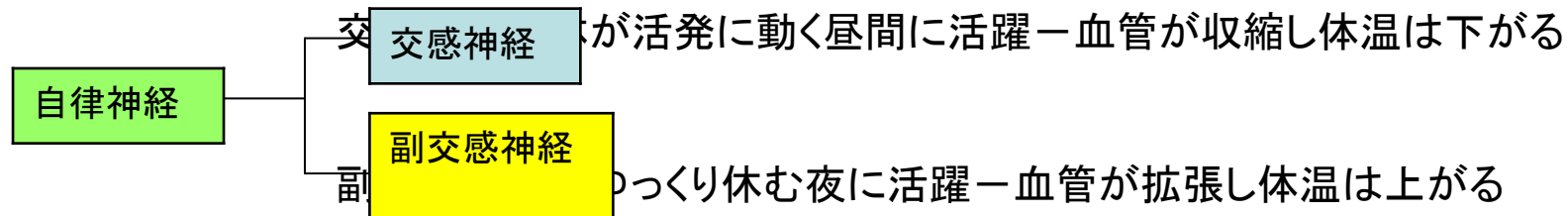
参 「冷え」が心身に及ぼす影響

川島朗医学博士(東京女子医科大付属青山クリニック所長)

1 冷えが生み出す代表的な症状

- 肩こり ・ 頭痛 ・ 腰痛 ・ 生理痛 ・ めまい ・ 耳鳴り ・ 吐き気 ・ 手足のしびれ ・ 下痢 ・ 便秘
- 消化不良 ・ **不眠** ・ **不安** ・ **イライラ** ・ **感情を表現できない** ・ **怒り等の感情に囚われている**

2 体温の決定権は自律神経にあり



3 低体温の影響

- 血流が滞ってしまった結果 = 血液が体の隅々まで送られていない状態 = その箇所は機能不全
- 身体的・精神的ストレス → 交感神経優位 = 体温が下がる → 免疫力低下

4 冷えを防ぐ留意点

- 炭水化物、たんぱく質、野菜をバランスよく摂る
- 水やお茶などを常温以上で体に取り入れる
- 精神的ストレスは交感神経優位にし、血流を妨げ体温を下げてしまうので解消法を工夫する
- 入浴は体を温め、精神的にリラックスさせるので、シャワーで済ませず湯船に十分以上温める

体温計が教えてくれる血液の活発度

「心の病は食事で治す」(生田哲薬学博士)

39.3°C ガン細胞死滅

36.5°C 健康状態。血液の働きも正常

36.0°C 熱を発生するためにふるえる

35.5°C 排泄障害。アレルギー症状出現

35.0°C ガン細胞が活性化

34.0°C 溺れた人の場合、蘇生率50%

33.0°C 凍死寸前。幻覚が現れる

30.0°C 意識不明

29.0°C 瞳孔拡大

27.0°C 死亡・死体の体温

・体温が低下すると、血管が収縮して血液が体の隅々にまで行き届きにくくなる。

・体温の低下は命をも脅かし、ほんの1°C、いや、0.5°Cで健康状態は大きく左右される。

■ 本市児童生徒の平均体温 (22年度調査)

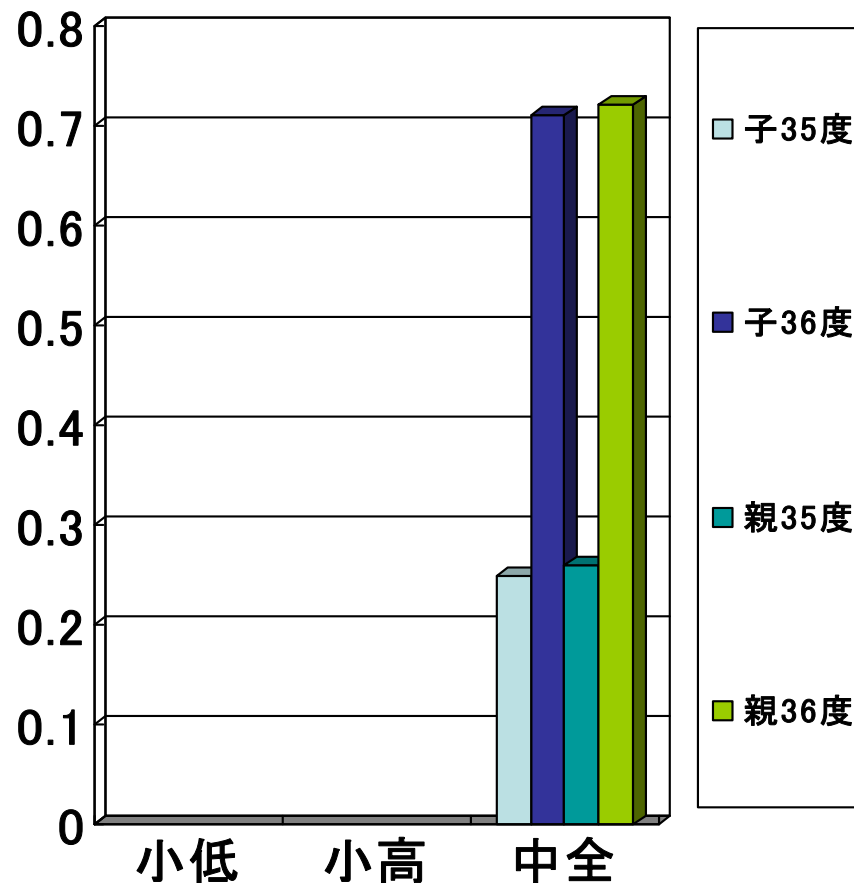
◎低体温状態に陥っている本市の子供たち。

・ 36.5℃で健康状態だが、35.5℃以下では排泄障害が起こり、アレルギー症状が起こる。

・ 日本人の平均体温は、50年前までは36.8℃前後であったが、今では35℃台の人が多く。

・ 平熱より1℃低下すると免疫力が30%以上低下し、平熱より1℃上昇すると免疫力が5、6倍になる。

*** 本市中学生の1/4は35℃台。**



＜参考＞「かくれ冷え症は万病のもと」(佐藤巳代吉:佐藤内科医院長 日本東洋医学会名誉会員)

＜冷え性とはなにか＞

人間の身体には、体温を一定に保つ恒常機能というものがあるが、生活習慣のあやまりやストレスなどから、冷え性となり、身体の組織への血流が悪くなり、新陳代謝が低下し、体温調節がうまくいけなくなり身体が冷える。(ホルモン異常、内臓疾患での二次的な冷え症もある)

*** 慢性化するとうつ傾向を示し根気がなく休みがちになり易い**

＜かくれ冷え症を予防するには＞ * 50年前からかくれ冷え症患者が増えている

1. 生活のリズムを整え、適度な運動を心掛けよう(セロトニンの活性化)
2. 朝日を浴び、太陽と対面しよう
3. 腹式呼吸を取り入れよう
4. 食事はよく噛みましよう(一口50回)
5. 食生活に注意を払おう
6. 身体を温める(冷えた室ではカイロも)
7. 日常生活の点検をしよう
8. むるめのお風呂で半身浴(40度前後のお風呂に15~20分半身で浸かると温まる)
9. 睡眠は十分とるように(一日7時間が理想。就寝前に簡単な運動も効果的)

<参考>「民族の食を捨て去った日本」

小泉武夫(東京農業大学教授)

<この半世紀で変化した食文化>

- ・本来の日本人の食文化は、
・低タンパク、低脂肪、低カロリー
(食材＝根茎、菜っ葉、青果、豆、魚、海草、米)



- ・高タンパク、高脂肪、高カロリー
(油の消費量4倍、肉が3倍)→**成人病増加**
(ミネラルが1/3に減少)→**精子の減少**

* 海草などに含まれる亜鉛などが補酵素となって作られるミネラルが不足すると、精子の数が減り、認知症も早く出やすくなる。(精液1CCに含まれる精子の数が外国の若者は1億1万匹に対して、日本の若者は8千7百万匹という)

・半世紀前の日本人は、豆腐のおから、サツマイモ、ゴボウ、わかめといった質素な食生活を送っていた。そのため、腸はなるべくたくさんの栄養を吸収するので長くなる。日本人が腸長なのはそのためです。一方、アングロサクソンは元々栄養のいいものを摂取していたので腸が短くてすんだ。彼らが日本人よりも足が長いのはそのためである。このように民族の食に応じて人間の体、要するに遺伝子がつるられる。

＜資料＞ビタミン・ミネラルの役割（精神的影響）

・高脂肪で甘い食物を頻繁に口にするようになった日本人は、ビタミン等の栄養不足に陥っている。

・「キレる」のもミネラル不足と大いに関係あるという研究結果が出ている
興奮ホルモン(アドレナリン)を抑制するのがミネラルの働き。(小泉)

・ビタミン、ミネラル、アミノ酸、必須脂肪酸は、相互作用することによって初めて本来の役割を果たすことができる。

・右上図はマルチビタミンについて
・右下図はマルチミネラルについて
(生田哲薬学博士)より

B1不足	感覚マヒ、痺れ、記憶喪失、混乱
B3不足	鬱状態、疲労、心配、多動、不眠
B5不足	緊張、めまい、不機嫌、言い争い
B6不足	心配、イライラ、不安、神経質
葉酸	不安定、頭痛、気落ち、無気力
B12不足	集中力と記憶力の低下
ビタミンC効果	血管・皮膚・粘膜・骨を丈夫にする
イノシトール	不足するとうつ病を引き起こす
コリン	学習力を改善し記憶障害を防ぐ

クロム不足	高血糖になり記憶力が落ちる
亜鉛不足	味細胞の生産低下で味覚異常に
鉄不足	記憶や集中力低下、うつ病発生
マグネシウム不足	脳疲労、うつ病、不安、不眠、震え

調査比較2-3. 家庭生活に関すること

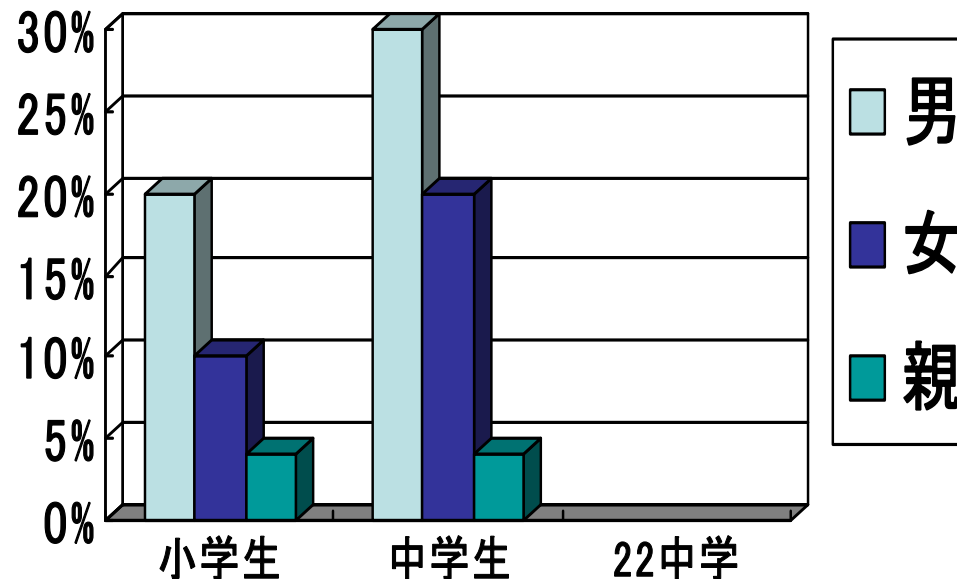
⑤家での話し相手がいないと

思っている子ども(子調査) ⇒

・「子の話し相手になっていない」(親調査)

* 子どもと親の認識がかなり違っている

女子に比べ、男子に
多いことに留意したい



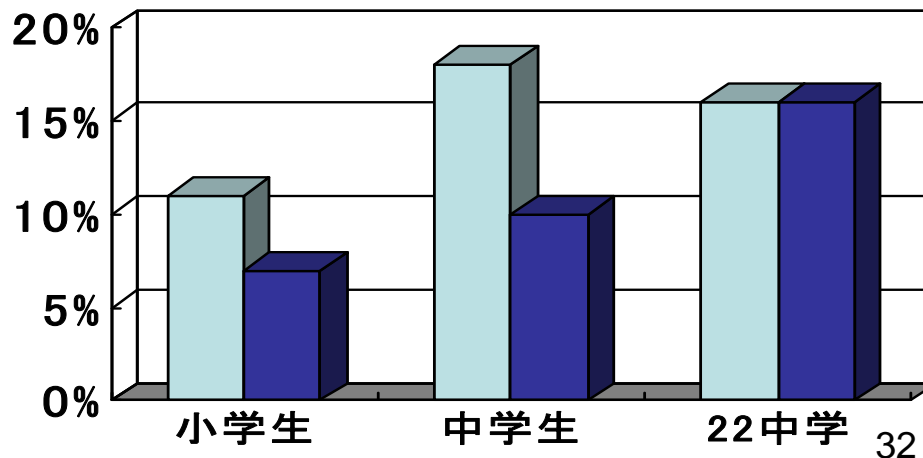
⑥家族に大事にされていない

と思っている子ども(子調査) ⇒

* 親調査では、親は子どもを大事にしている
と伺えるが互いの認識が違っている

・子どもに必要とされている(小:82%. 中:69%)

・積極的に子に関わっている(小:36%. 中:43%)



参考：「親子意識調査」(サントリー研究所)

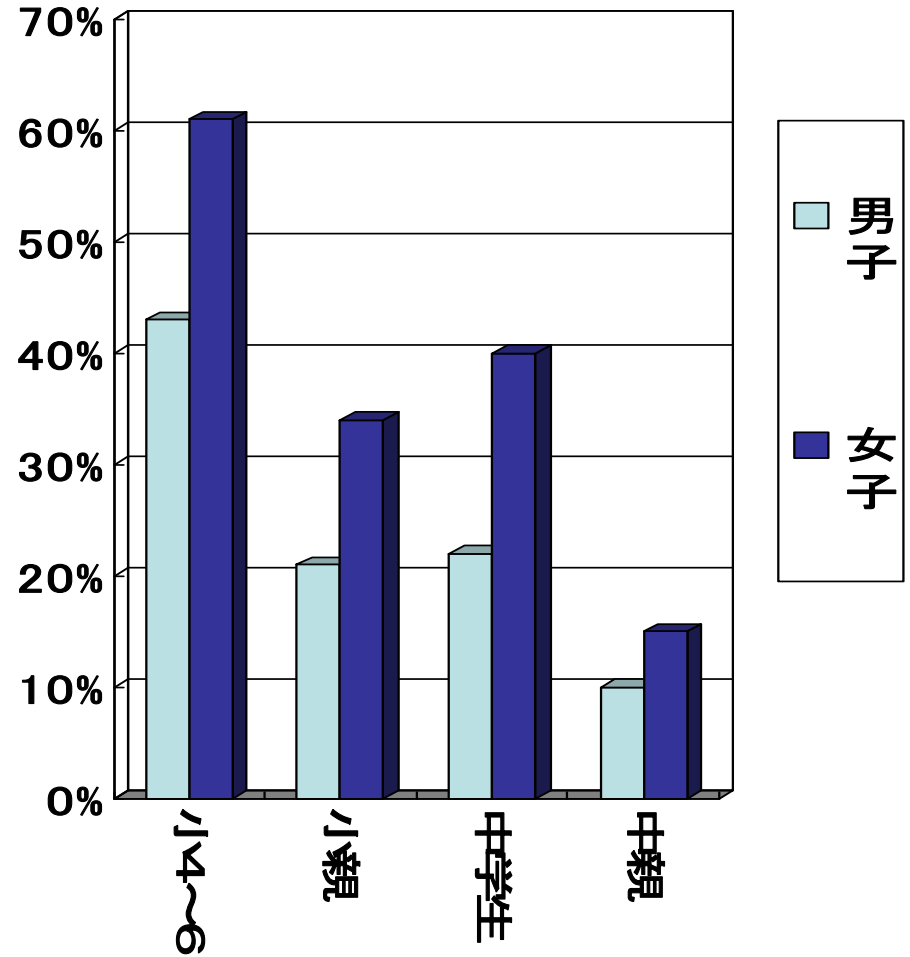
①「親と一緒にいて楽しい」と思う子どもの割合⇒



＜大人の認識のズレが大きい＞
親が思っている以上に、親
といて楽しいと思っている
子どもは多い



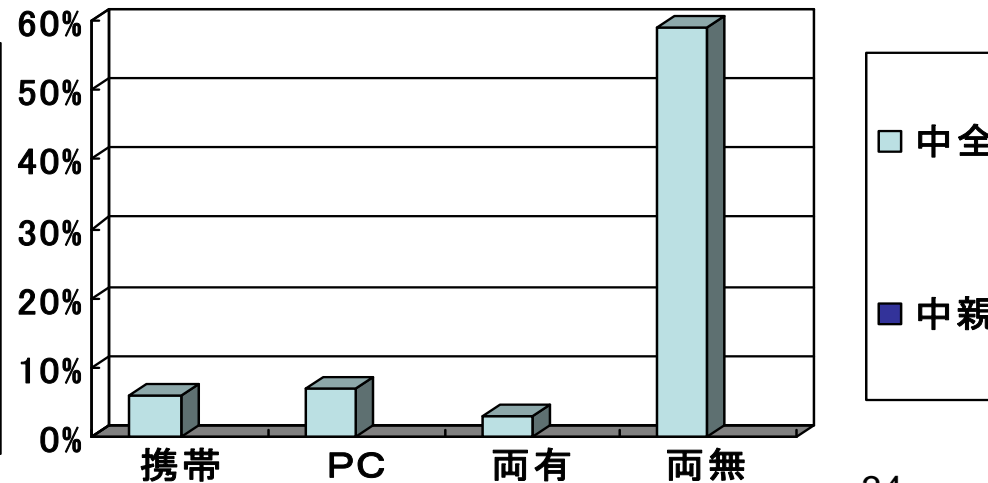
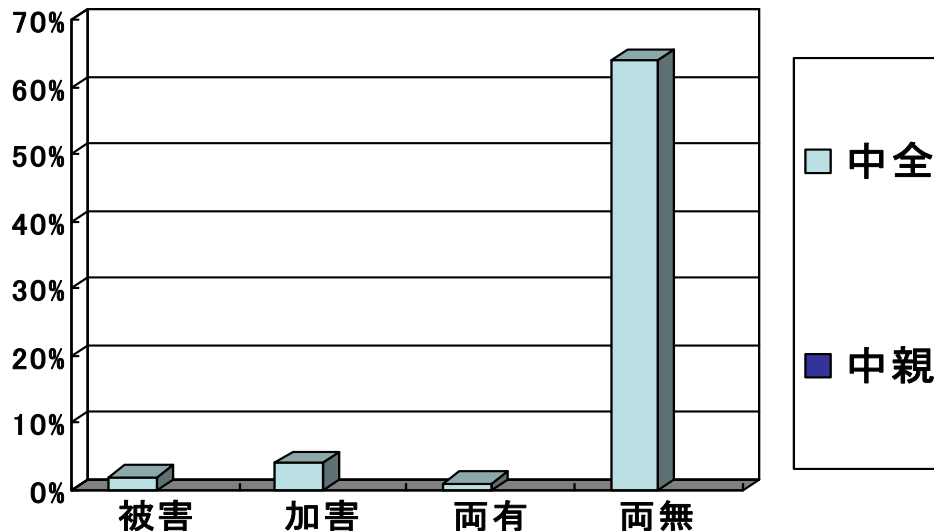
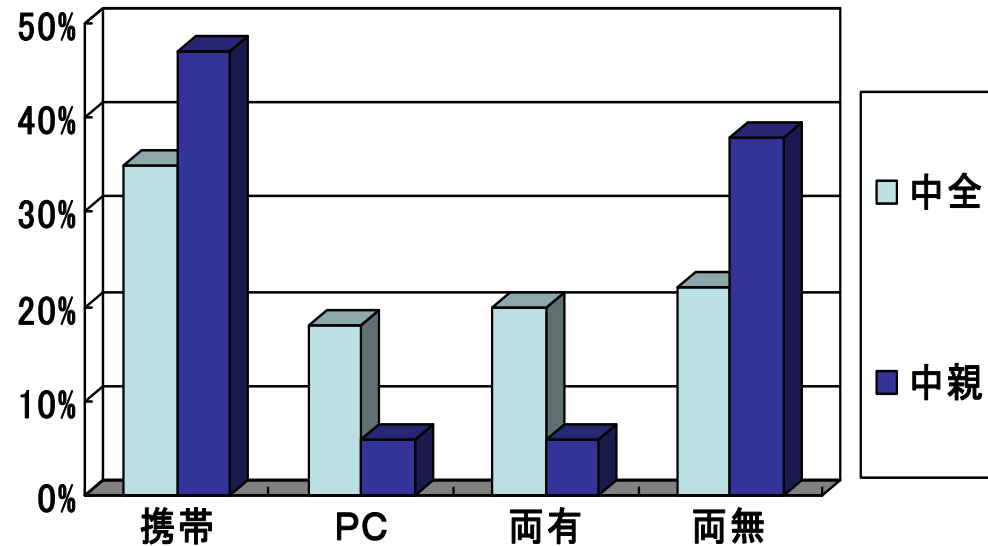
②「子どもは親と一緒にいて楽しい」と感じている保護者の割合 ⇒



2-6. 家庭生活に関すること (IT関係/22調査)

<携帯電話／PCの保持率>

- ①自由に使える携帯電話やパソコンを持っていますか(対象:中全、中親) ⇒
- ②自分のブログやプロフを持ってるか (右下)
(対象:中全、中親)
- ③悪口を書かかれたり書いたりしたか ↓
(対象:中全、中親)



2-7. 家庭生活に関すること (IT関係/22調査)

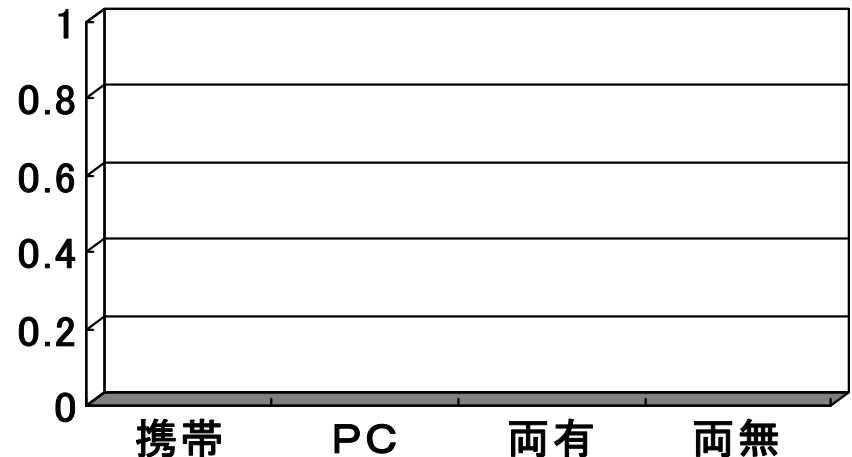
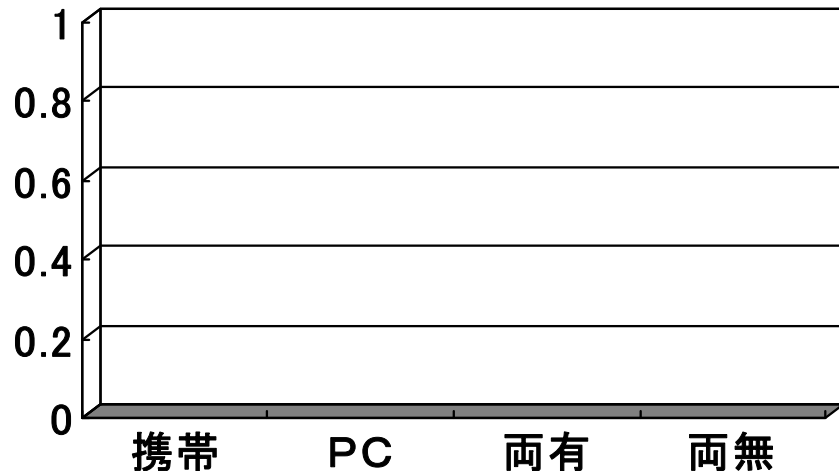
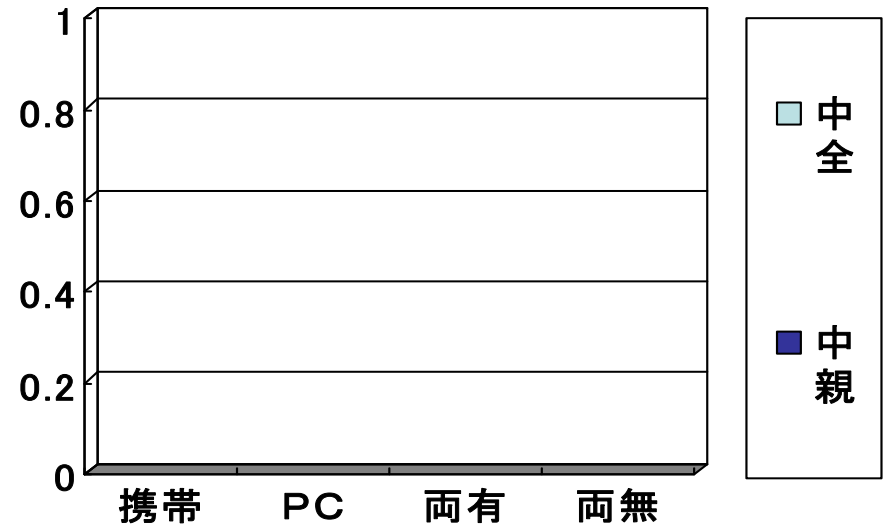
<携帯/PCの使用方法>

①自分の悪口等を不特定多数の携帯電話等にメール(チェーンメール)で送信されたり、誰かに送信したことはありますか ⇒

*3点とも、中学生・中学生保護者対象の調査結果

②携帯やPCでのメールの1日平均の送受信件数は何件くらい (右下)

③携帯やPCの注意点やマナーは誰に教わったか ↓



調査比較3. 悩みや不安に関すること <前調査>

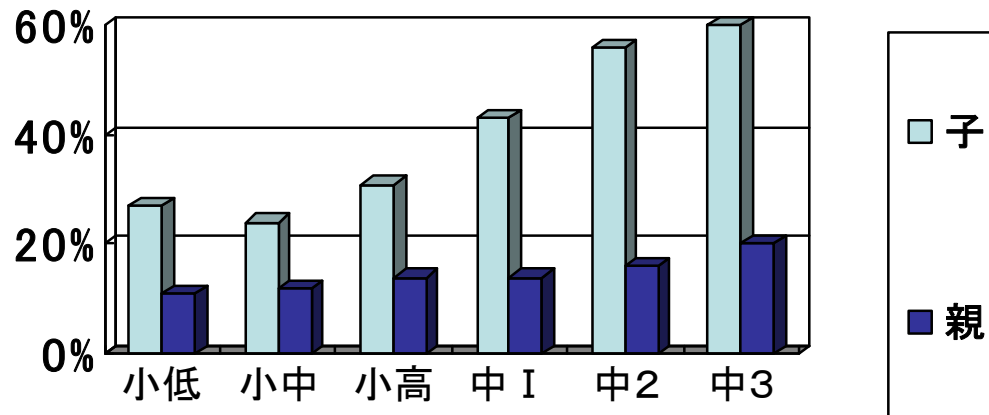
①子は**悩みや不安**が多いが ⇒
親は少なくとらえている

孤独感や虚無感を感じ
ている子ども達が多い

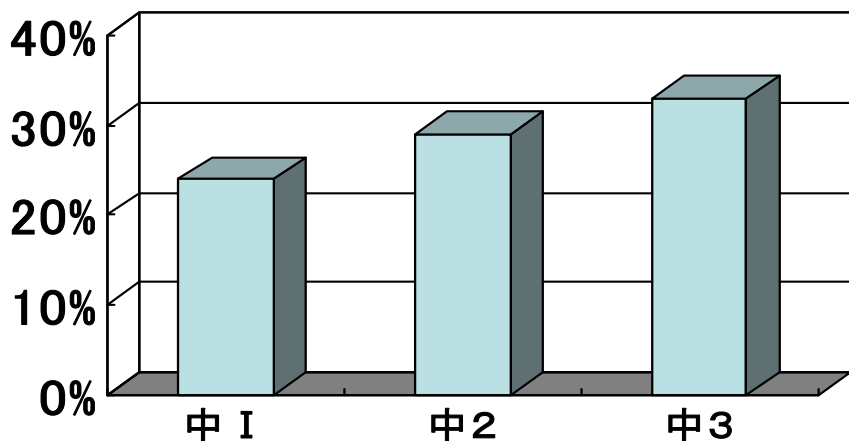
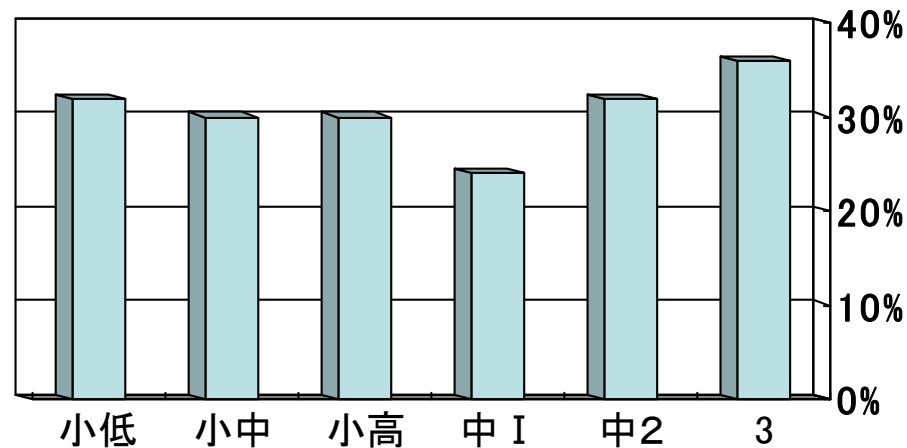
②何をやっても楽しくない ⇒

③学校や家庭で一人取り残され感がある↓

<学校や家庭の事で悩んでる>



<何をやっても楽しくない>



調査比較4-1. 心理・行動に関すること

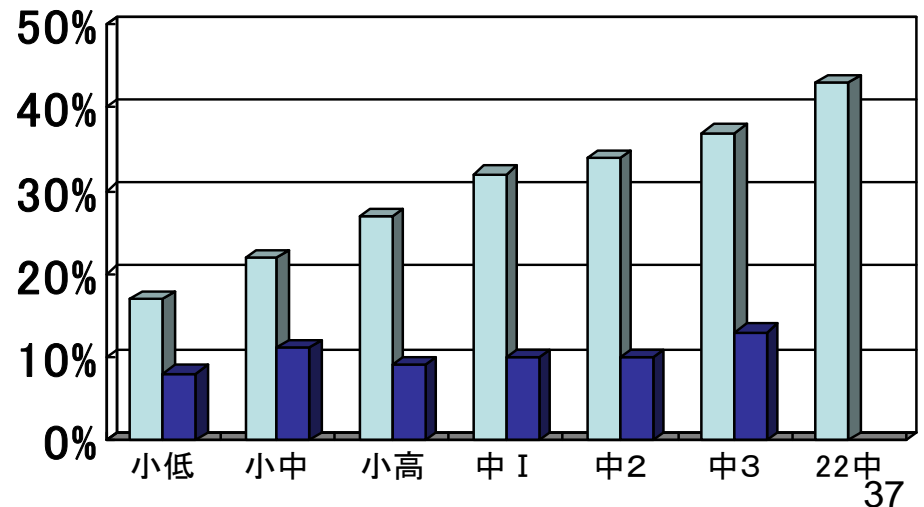
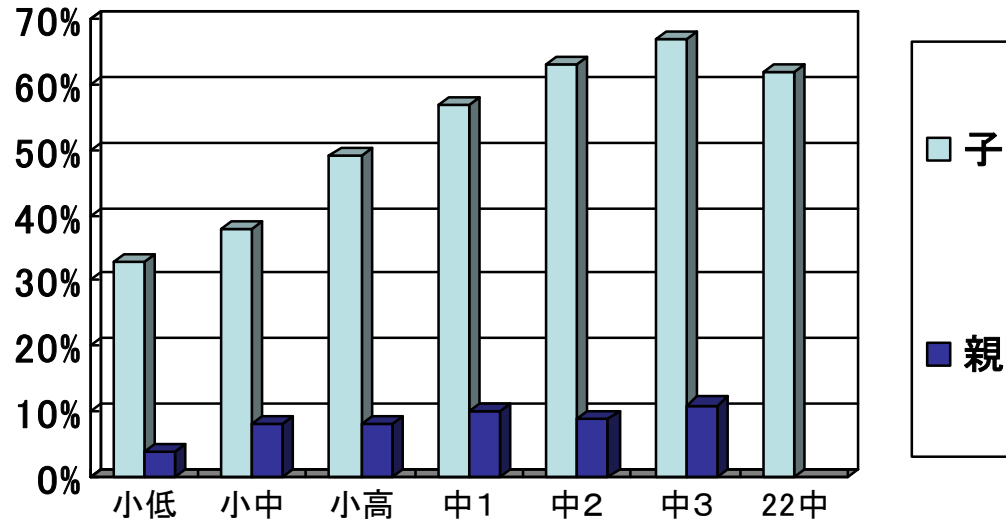
① 自分のことを好きだとは思えない子ども ⇒

* 親の認識が違っている

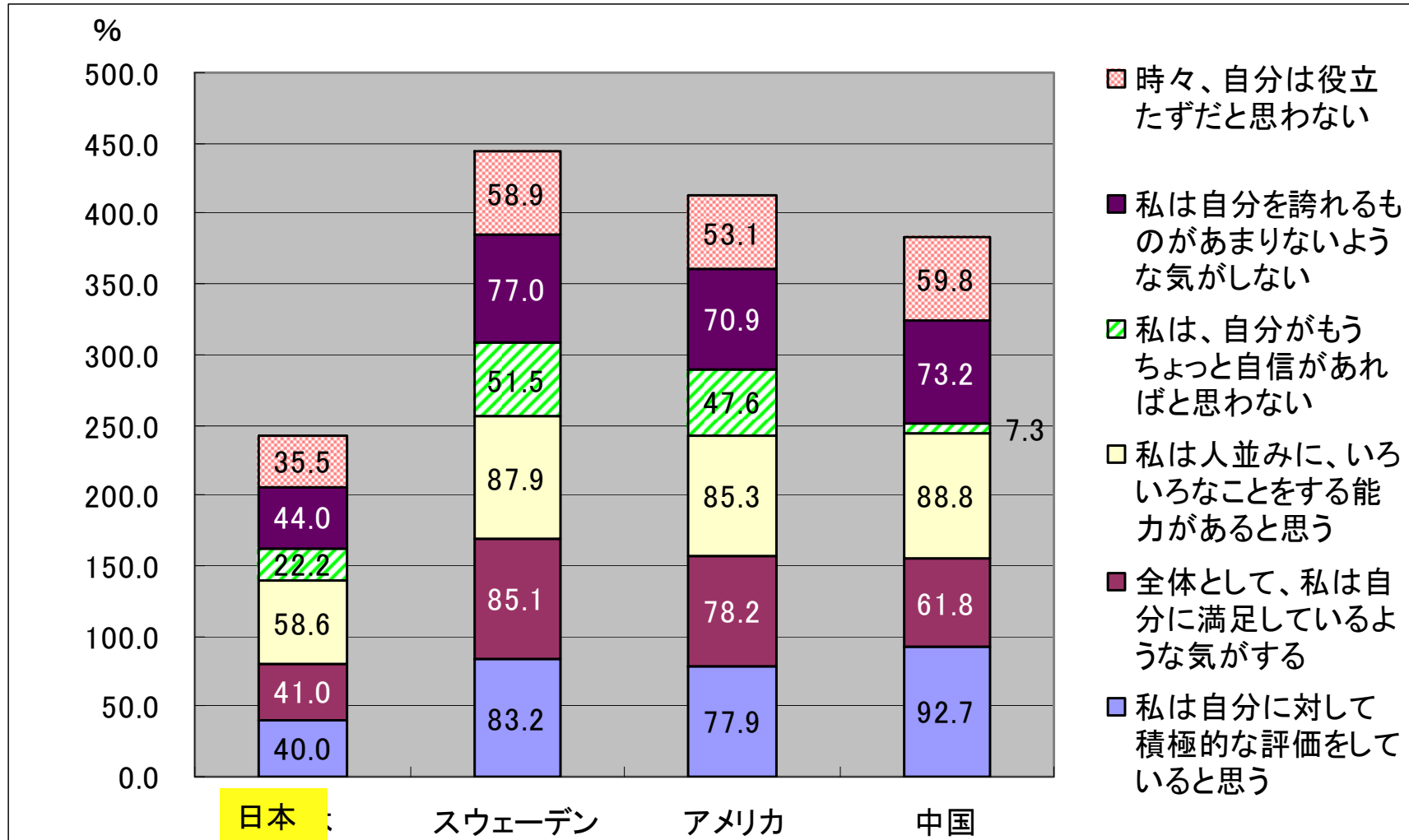
自己肯定感の低い子どもが多いのが、最近の日本の特徴

② 自分には良い所がないと思う子ども ⇒

* 親の認識が違っている



参考：各国の子どもたちの「自信度」比較（慶応大調査）

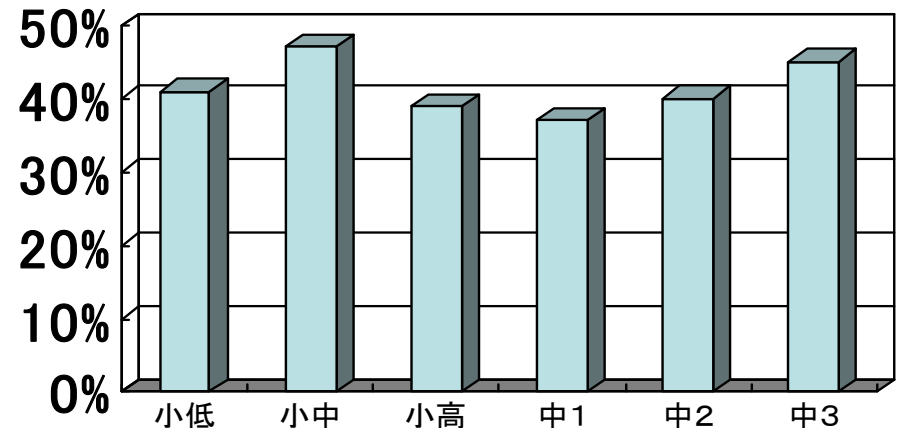
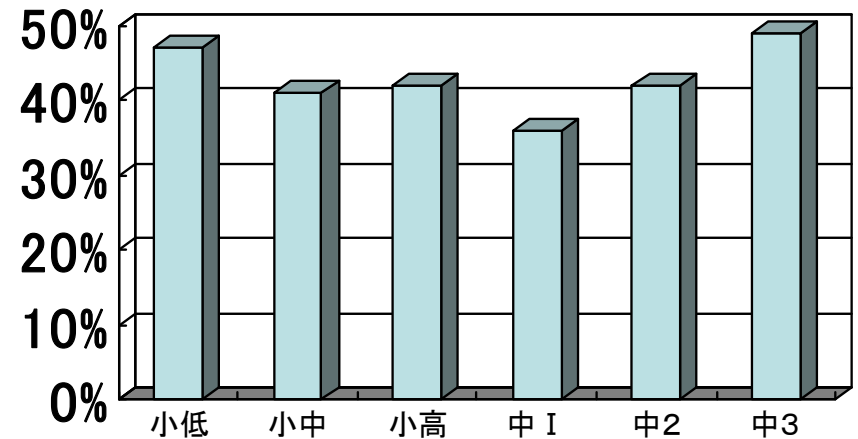


調査結果4-2. 心理・行動に関すること<前調査>

③「何でもないのにイライラする」(子ども調査) ⇒

ストレス過多の生活で、
情緒が不安定な状態に
なっている子どもが多い

④「思いっきり暴れたくなる」(子ども調査) ⇒



1. 学校生活(教師の課題)

- ① 友だち作りの援助→特に男子への援助(エンカウンターグループの導入等)
- ② いじめ防止の取り組みの更なる強化→各学校独自のアンケートの実施等

2. 家庭生活(保護者の課題)

- ① 基本的な生活習慣形成→早寝・早起き・朝ご飯＝防衛体力の育成。冷えの防止
- ② 手伝いのさせ方の工夫→生活体験・社会体験を豊かに。自分の食事の用意等
- ③ 子どもとの会話の工夫→共感的な会話を心掛け、子どもの話を共感的に聴く
- ④ 子どもとの意識や認識のズレの改善→「できて当たり前」から脱却した傾聴と声掛け

3. 悩みや不安(周囲の課題)

- ① 話しやすい関係・環境作り→共感的な会話を心掛け、子どもの自己肯定感を高める
- ② 話しやすい会話の工夫→指示・命令ではなく双方向のコミュニケーションを心掛ける

4. 心理や行動(周囲の課題)

- ① 肯定語を使う→否定語を使わず、肯定語を使うように心掛ける
(例)「そんな消極的じゃあ、やらせられないな」→「太郎は慎重派だけどやっpegらん」
- ② 誉め認めることを増やす→やる気や自発性を促すエネルギー源になる
- ③ 温かい言葉掛けや承認の工夫→(例)「太郎がいるから家がいつも明るいね」

参考：親子関係国際比較研究 (東洋大調査)

1. 米・中・韓等6カ国と比較した日本の子どもの特徴

- ①非行(飲酒・喫煙・夜遊び)に対するきわめて許容的な態度
- ②道徳意識(約束、自分勝手、大人の指示を無視)がかなり歪んでいる
- ③望ましくない価値観・人生観(金銭思考、努力より運)を持つ
- ④思いやり意識(老人に席を譲る、ボランティア意識)が非常に低い

2. 日本の親子の特徴

- ①父と子、母と子の心理的距離が他の国と比べ、異常に遠い
- ②親との心理的な距離の遠い子どもほど、上記4点を強く持っていた

3. 非行抑制要因の中核は、モデル学習による「思いやり意識」



* 親が**共感性に富んだ会話**をすることで、子どもに「思いやり意識」が育ち、親子の心理的距離も縮まり、望ましい成長が期待される

5-1.子どもとの会話の工夫：共感的な会話

	一般的な会話	共感的な親の会話
親の返事	子：「犬がこわいよ」 ↓ 親：「犬はこわくないよ」	子：「犬がこわいよ」 ↓ 親：「犬がこわいんだね」
返事の意味	①怖いと思うお前は弱虫な子だ ②皆と違うお前は変な奴だ ③怖くないのに分からず屋で頑固な子 ④怖くないと言わない奴は可愛くない	①怖いと思っているんだね ②皆が怖いと思わないけど怖いと思うことはあるよね。母さんは蛇が怖いし兄ちゃんはクモが怖いよね
子供の未来像	①自分の思いを言っても否定されるので言わなくなり、殻に閉じこもる ②自分の感じ方を信じなくなり、感じることをやめるので、他人の気持ちにも鈍感で何事にも消極的になる	①自分の思いを言っても肯定されるので、どんどん話す子になる ②自分の感じ方を信じ、自己肯定感が高まり、他人の気持ちもよく分かり、何事にも積極的になる
孤立度	①親の他に分かってくれる人がいなければ、日常的に孤立する	①より親を信じ、どんなことでも相談するので孤立しない

2-7 家庭生活に関すること (叱り方/22調査)

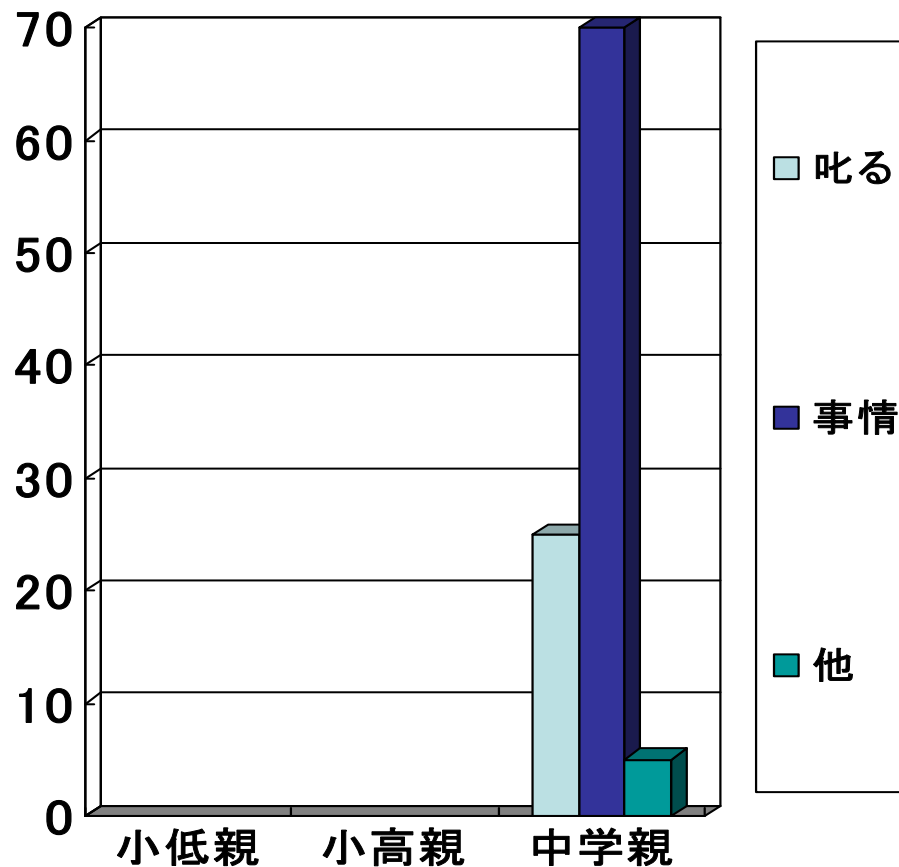
<問41> 保護者への質問

・あなたはお子様に注意する時(勉強や手伝いをしない等)の注意の仕方は

ア. まず叱る

イ. まず事情を聞いてから注意する

ウ. その他



参考：『子は親の鏡』ドロシー・ロー・ノルト著「子どもが育つ魔法の言葉」より

- 1 けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる ⇒ いじめ加害者に
- 2 とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる ⇒ いじめ加害者に
- 3 不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる
- 4 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
- 5 子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる
- 6 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
- 7 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- 8 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
- 9 広い心で接すれば、キレる子にはならない 逆⇒ いじめ加害者に
- 10 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
- 11 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
- 12 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
- 13 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
- 14 分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
- 15 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
- 16 子どもに公正であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
- 17 優しく、思いやりをもって育てれば、子どもは、優しい子に育つ
- 18 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
- 19 和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世はいい所だと思えるようになる

<参考> 子どもを伸ばす叱り方の例

① 親自身の叱り方を振り返る (お風呂の準備が手伝いの場合)

親1「お風呂の準備また忘れてる、だらしないわね！」→子1「うるさいな」

親2「口答えするんじゃないよ、子どものくせに」→子2「何だとー(反抗)」



* 「〇〇するな」ではなく「〇〇しなさい」という言い方に変える (否定語よりも肯定語を)

② 自分で考えて行動させる

* ある調査によると命令は最も効率の悪い意思の伝え方だそうです。命令という伝え方だと、時間がたつと10%しか覚えてないといえます。また、命令されてばかりいると子どもは自分の頭で考えることなく行動し、また、言われたことに自ら責任を持つこともないといえます。

親1「お風呂の準備は何時頃の予定？」→子1「このTV終わったら。後10分位」

親2「いつもちゃんとやってくれて助かるわ」→子2「もうすぐやるよ」

5-2. 「出来て当たり前」より前向きな傾聴と声掛け

	一般的な声掛け(評価)	前向きな声掛け(評価)
親の返事	子:「居間の掃除しておいたよ」 ↓ 親:「あっ、そう。明日もね」	子:「居間の掃除しておいたよ」 ↓ 親:「ありがとう。助かるわ」
子の受止め方	①自分の仕事だから当たり前だけど・・・ ②誉めてくれると思ってたけど・・・ ③少しくらい誉めてくれても・・・ ④誉められないで損した気持ち	①お母さんの役に立てて嬉しいな ②もっとお母さんの役に立ちたいな ③違う人の役にも立ちたいな ④人の役に立つのって気持ちがいいな
子供の未来像	①評価ばかりに気を取られ、評価されないことはせず、真の自主性・主体性は伸張せず、身につかない ②自分への評価ばかり気にして、裏表な行動を取り易い	①評価に関係なく、自主的・主体的に、どんどん行動する子になる ②評価にとらわれず、人が見ている、見ていないに関わらず、裏表のない、自主的・主体的に行動を取ることが出来る
主体性	①自分の仕事が家族の役に立つことを確認できないため、自主的に行動する力がつかない	①人に認められるため、自分で考え自主的に行動する力がつく

5-3. 否定語を使わず、肯定語を使うように心掛ける

	一般的・否定的な声掛け	肯定的な声掛け
親の返事	子:「九九が出来ないよ」 ↓ 親:「 どうして出来ないの? 」	子:「九九が出来ないよ」 ↓ 親:「 どこまでなら出来るの? 」
子の受止め方	①出来ない僕は頭が悪いんだな ②皆は出来るのに出来ない僕はダメなんだな ③簡単なのに出来ない僕はおかしいのかな ④諦めやすい子だって親は思ってるのかな	①どこまでなら出来るかを考えてみようかな ②自分だけ出来なくてもダメじゃないんだな ③簡単だけど練習不足だったのかな ④諦めないで原因を考えればいいんだね
子供の未来像	①「うるさい、どうせ僕は、母さんだって」と、親に反感を持ち、殻に閉じこもる ②自分の能力を疑い、自己肯定感が低下し、努力しなくなるので、勉強だけでなく、何事にも投げやりになる	①「もっと練習すればいいのかな」などと考えられ親に話してよかったと思える ②自分の可能性を信じ、自己肯定感が高まり、努力するようになるので、勉強だけでなく、何事にも積極的になる
孤立度	①親がいつもこのような後ろ向きな質問であれば、日常的に孤立する	①より親を信じ、どんなことでも相談するので、孤立しない

5-4. 温かい言葉掛けや承認の工夫

	一般的な言葉掛け	温かい言葉掛け
親の返事	<p>子:「あー、寒い、寒い」</p> <p>↓ (部活動から帰宅して炬燵に潜る)</p> <p>親:「早く着替えなさいよ、まったく…」</p>	<p>子:「あー、寒い、寒い」</p> <p>↓ (部活動から帰宅して炬燵に潜る)</p> <p>親:「寒いのに今日も頑張ったね」</p>
返事の意味	<ul style="list-style-type: none"> ①全く、お前はちゃんとしらない子だ ②毎日、同じ事を言わせて困った子だ ③何度言っても、だらしのない子だ ④私だって寒いのに夕食作りしてるのに 	<ul style="list-style-type: none"> ①お前は、毎日、よく頑張りを続ける子だね ②寒かったんだから体を温めなさい ③頑張った我が子に美味しい夕食を作ってあげるからね
子供の未来像	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の思いを言っても否定されるだけなので言わなくなり、会話をしなくなる ②自分の感じ方を信じなくなり、感じることをやめるので、他人の気持ちにも鈍感で何事にも消極的になる 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の思いを言っても肯定してくれるのでどんどん話す子になる ②自分の頑張りを認めてもらうと自己肯定感が高まり、人の頑張るりも認めるようになる→お母さんも大変だから手伝おう
孤立度	<ul style="list-style-type: none"> ①親の他に分かってくれる人がいなければ、日常的に孤立する 	<ul style="list-style-type: none"> ①より親を信じ、どんなことでも話すので孤立しない

5-5 基本的な生活習慣形成と家庭教育の留意点

1 早寝・早起き・朝ご飯

- ・ ゆったりお風呂で快適睡眠＝ぬるめの湯加減がよい睡眠へ誘う
- ・ 人間は朝昼は脳内のセロトニンが多いので目覚め、夜は少ないので眠るのが自然
- ・ 朝起きた時の脳はエネルギー欠乏状態だから補給する(朝食をとる)必要がある
- ・ 砂糖の過剰摂取は低血糖症(不眠・疲労感・集中力欠如・イライラ等)を引き起こす

2 規則正しい生活による防衛体力の育成

- ・ これまでは「こころ」の問題として考えられてきた問題も、実はこの防衛体力の低下と深く関わった「からだ」の問題でもあることが最近分かってきている

3 冷えの防止→体を冷やす＝心身の不調・免疫力の低下

- ・ 朝食を食べないと体温上昇が遅くなり、生活リズムがうまくつけれない

4. 手伝いのさせ方の工夫

- ・ 生活体験や社会体験を豊かに、買い物、家の中の整理整頓、自分の食事の用意等

5. 子どもとの会話の工夫

- ・ 共感的な会話を心掛け、子どもの話を共感的に聴く
- ・ 適切な傾聴と声掛けにより、子どもとの意識や認識のズレの改善する

6. まとめ

富士見市教育委員会

「家庭における人間尊重教育十か条」

- 1 人のいのちを大切にし、いのちある動物、植物をいたわりましょう
- 2 健康を大切にし、正しい食事と適度な運動で、からだづくりにつとめましょう
- 3 おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- 4 ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう
- 5 家族のしごとを分担し、家族の一員としての役割をはたしましょう
- 6 人の喜びを喜びとし、人の心の痛みを分かちあい助けあって生きましょう
- 7 やさしさ、いたわりの心を大切にし、おとしよりの方々に学びましょう
- 8 どんな物も人の汗と力でできることを知り、物を大切に作る心を育てましょう
- 9 正しくやさしいことばでつつまれた明るい家庭をつくりましょう
- 10 正しいことをつらぬく強い心で、勇気ある行動をとりましょう